
川越市障害福祉に関するアンケート調査 報告書 (概要版)

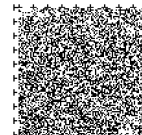
令和8年3月

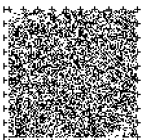
川 越 市

この冊子は音声コード付きです。

右のマークが音声コードで、コードの位置を示すために切り込みを入れています。

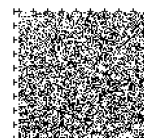
専用の読み上げ装置を使用して読み取ることで、音声で内容を聞き取ることができます。



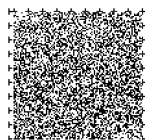


目次

調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査対象・回収状況	1
3. 調査時期	1
4. 調査方法	1
5. 概要版の構成	2
6. この報告書における調査結果の見方	2
調査結果	3
I. 誰もが安全・安心に暮らせるまち	3
1. 差別解消・相互理解・権利擁護	3
1-1. 「差別解消・相互理解・権利擁護」に関する調査結果	3
（1）「地域共生社会」を知っていましたか。	3
（2）「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」を知っていましたか。	4
（3）障害があることで差別を受けたり嫌な思いをしたりすることはありますか。	5
（4）障害のある人への差別や偏見を感じたことはありますか。	5
（5）障害に対する市民の理解について、進んでいると感じますか。	6
（6）あなた自身に障害のある人に対して差別や偏見があると思いますか。	6
（7）障害のある人への誤解や偏見を解消するためにどのようなことが必要だと思いますか。（MA）	7
（8）施策分野1に関連する自由記述（抜粋）	8
1-2. 「差別解消・相互理解・権利擁護」に関する見えてくる課題	9
2. 住みよい福祉のまちづくり	10
2-1. 「住みよい福祉のまちづくり」に関する調査結果	10
（1）災害時に一人（自力）で避難することはできますか。	10
（2）災害発生時に困ることや不安なことは何ですか。（MA）	11
（3）施策分野2に関連する自由記述（抜粋）	12
2-2. 「住みよい福祉のまちづくり」に関する見えてくる課題	12
3. 保健・医療サービスの充実	13
3-1. 「保健・医療サービスの充実」に関する調査結果	13
（1）健康管理や医療で困ったり不便に思うことは何ですか。（MA）	13
（2）施策分野3に関連する自由記述（抜粋）	14
3-2. 「保健・医療サービスの充実」に関する見えてくる課題	14



Ⅱ. 自立を尊重し、総合的な支援が受けられるまち	15
4. 療育体制及び学習機会の充実	15
4-1. 「療育体制及び学習機会の充実」に関する調査結果	15
(1) 通園・通学にあたって困っていることは何ですか。(MA)	15
(2) 施策分野4に関連する自由記述(抜粋)	16
4-2. 「療育体制及び学習機会の充実」に関する見えてくる課題	16
5. 雇用・就労の促進	17
5-1. 「雇用・就労の促進」に関する調査結果	17
(1) あなたの昨年1年間のおおよその総収入額をご記入ください。	17
(2) あなたの生活を支えている収入は次のうちどれですか。(MA)	18
(3) 現在、仕事をしていますか。	19
(4) 仕事をする上で主に困っていることは何ですか。(MA)	20
(5) 障害のある人の就労を促進するためには何が必要だと思いますか。(MA)	21
(6) 施策分野5に関連する自由記述(抜粋)	22
5-2. 「雇用・就労の促進」に関する見えてくる課題	23
Ⅲ. 一人ひとりに配慮した支援が受けられるまち	24
6. 福祉サービスの充実・向上	24
6-1. 「福祉サービスの充実・向上」に関する調査結果	24
(1) 現在の生活で困っていることや悩んでいることは何ですか。(MA)	24
(2) 障害のある人が地域で生活していくためには何が必要だと思いますか。(MA)	25
(3) 次の障害福祉サービスを利用していますか。今後3年以内にどのくらい利用したいですか。	26
(4) 介助者に必要と思われる支援はありますか。(MA) 【介助者向け調査】	30
(5) 施策分野6に関連する自由記述(抜粋)	31
6-2. 「福祉サービスの充実・向上」に関する見えてくる課題	31
7. 社会参加の拡充	32
7-1. 「社会参加の拡充」に関する調査結果	32
(1) 1年間で次の活動をする機会がありましたか。(MA)	32
(2) 今後してみたい余暇活動は何ですか。(MA)	33
(3) (2)の活動をするにはどんなことが必要だと思いますか。(MA)	34
(4) 外出でどのようなことに困っていますか。(MA)	35
(5) 施策分野7に関連する自由記述(抜粋)	36
7-2. 「社会参加の拡充」に関する見えてくる課題	36
川越市の障害者施策の満足度	37
1. 「川越市の障害者施策の満足度」に関する調査結果	37
(1) 川越市の障害者施策について、満足していますか。	37
(2) 次の市の取り組みで、改善してほしいことを教えてください。(3LA)	38



調査の概要

1. 調査目的

次期川越市障害者支援計画（令和9年度～）を策定するにあたり、障害のある方やその介助者等（以下、障害者等という）へアンケート調査を行い、障害者等の生活上の課題やニーズ、状況の変化を把握します。

2. 調査対象・回収状況

「障害者手帳所持者等（身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、発達障害者、高次脳機能障害者）」、「特別支援学校高等部3年生」、「障害者支援施設利用者及びグループホーム利用者（以下、施設・グループホーム利用者という）」、「障害のない市民」を対象に調査を実施しました。

調査対象		抽出者数	調査票 回収数	回収率
当事者調査	障害者手帳所持者等	3,200	1,651	51.6%
	身体障害者	800	450	56.3%
	知的障害者	800	389	48.6%
	精神障害者	800	367	45.9%
	難病患者	800	445	55.6%
	（発達障害者※）	-	357	-
	（高次脳機能障害者※）	-	45	-
	特別支援学校高等部3年生	44	18	40.9%
施設・グループホーム利用者	511	248	48.5%	
障害のない市民	800	327	40.9%	
合計	4,555	2,244	49.3%	

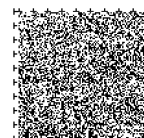
※「発達障害者」「高次脳機能障害者」は、「障害者手帳所持者等」対象の調査で「発達障害や高次脳機能障害がある」と回答された方を内数で抽出しています。

3. 調査時期

令和7年9月5日～10月31日

4. 調査方法

- ・対象者を無作為抽出し、調査票を郵送により配布
- ・回答方法は、「紙の調査票に回答して郵送」と「電子申請（オンライン回答）」から回答者が選択



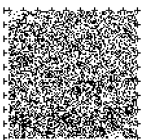
5. 概要版の構成

「川越市障害福祉に関するアンケート調査報告書（概要版）」は、調査結果の内容を「川越市障害者支援計画（第7次川越市障害者計画・第7期川越市障害福祉計画・第3期川越市障害児福祉計画）」における以下の施策分野ごとに整理しています。

- I. 誰もが安全・安心に暮らせるまち
 - 施策分野1. 差別解消・相互理解・権利擁護
 - 施策分野2. 住みよい福祉のまちづくり
 - 施策分野3. 保健・医療サービスの充実
- II. 自立を尊重し、総合的な支援が受けられるまち
 - 施策分野4. 療育体制及び学習機会の充実
 - 施策分野5. 雇用・就労の促進
- III. 一人ひとりに配慮した支援が受けられるまち
 - 施策分野6. 福祉サービスの充実・向上
 - 施策分野7. 社会参加の拡充

6. この報告書における調査結果の見方

- ・調査結果の数値は、回答率(%)で表示しています。回答率(%)の母数は、その質問項目に該当する回答者の総数であり、その数はn= で示しています。
- ・回答率(%)については、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示しています。そのため回答率(%)の合計数値は100%とはならない場合があります。
- ・回答には、単一回答(○は1つ)と複数回答(○は複数)があり、複数回答の場合は回答率(%)の合計数値は100%を超える場合があります。
- ・タイトルにある「MA」は「複数回答(マルチアンサー)」、「3LA」は「回答制限が3つ(3リミテッドアンサー)」を示しています。同様にグラフの「MA%」は複数回答されていることを示しています。
- ・「発達障害者」「高次脳機能障害者」は、「障害者手帳所持者等」対象の調査で「発達障害や高次脳機能障害がある」と回答された方を内数で抽出しています。
- ・本文、表、グラフの間のタイトル及び回答の選択肢は、簡略化して表現している場合があります。



調査結果

I. 誰もが安全・安心に暮らせるまち

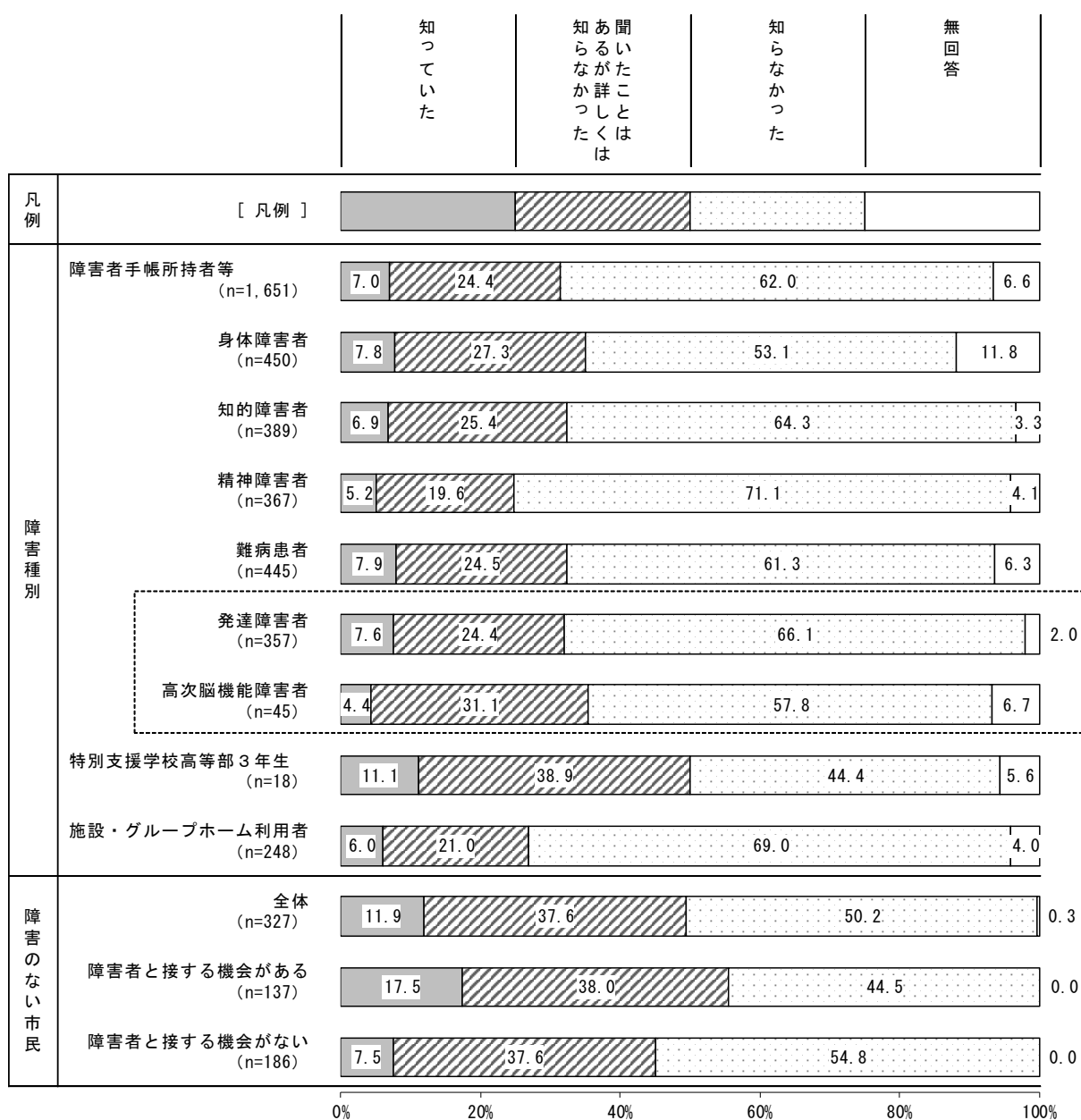
1. 差別解消・相互理解・権利擁護

1-1. 「差別解消・相互理解・権利擁護」に関する調査結果

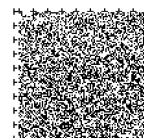
(1) 「地域共生社会」を知っていましたか。

- 「地域共生社会」の認知状況について、障害者手帳所持者等、特別支援学校高等部3年生、施設・グループホーム利用者いずれも「知らなかった」が最も多くなっています。
- 障害のない市民では、「知らなかった」が50.2%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが詳しくは知らなかった」が37.6%、「知っていた」が11.9%となっています。また、「障害者と接する機会がある」市民の方が認知度は高くなっています。

【「地域共生社会」の認知状況】



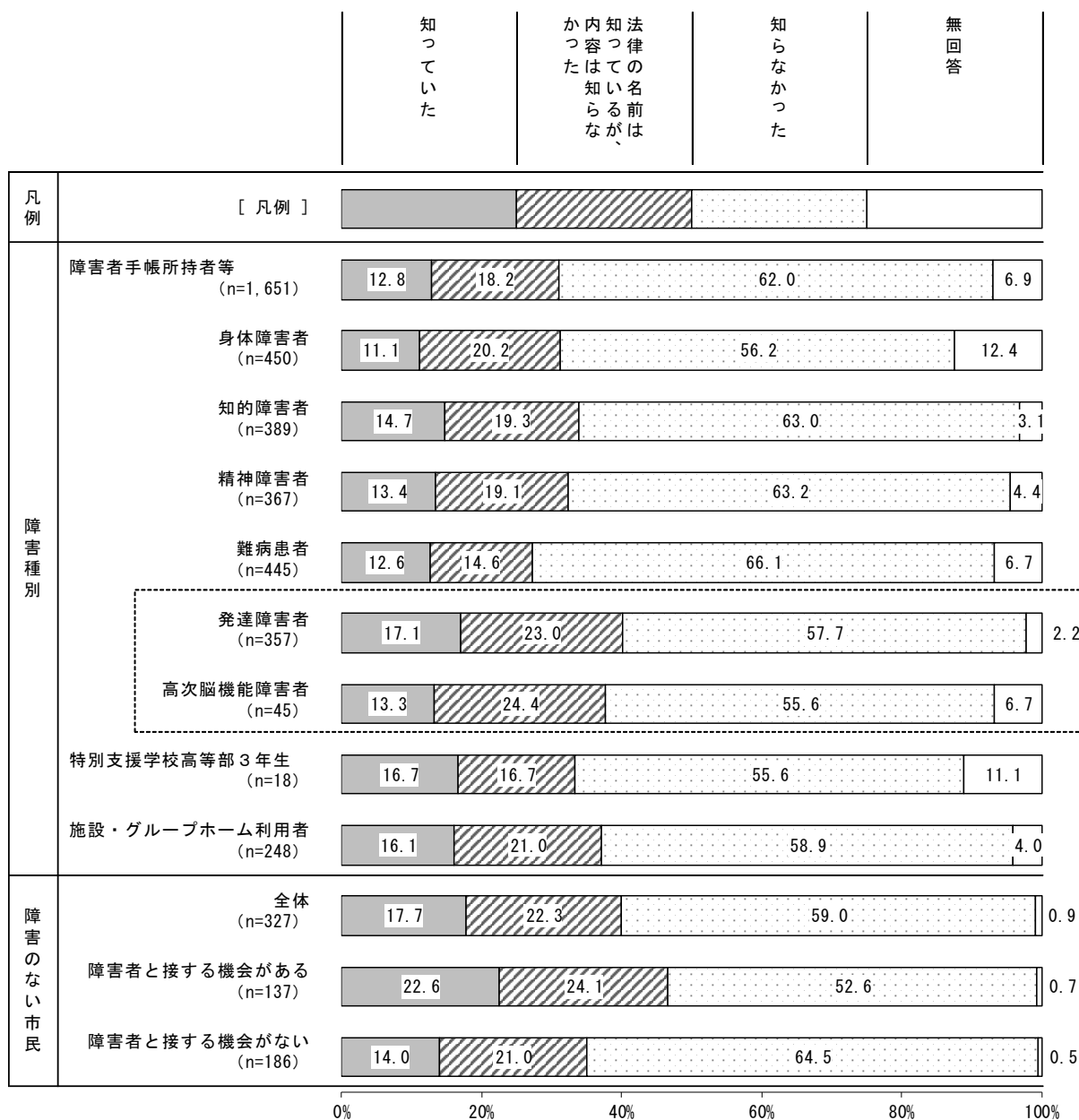
注) 「障害のない市民」で、障害者と接する機会の有無で無回答があるため、「障害者と接する機会がある」と「障害者と接する機会がない」の合計は「全体」と合いません。



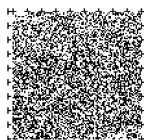
(2) 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」を知っていましたか。

- 「障害者差別解消法」の認知状況について、障害者手帳所持者等、特別支援学校高等部3年生、施設・グループホーム利用者いずれも「知らなかった」が最も多くなっています。
- 障害のない市民では、障害者差別解消法の認知状況について、「知らなかった」が59.0%で最も多く、次いで「法律の名前は知っているが、内容は知らなかった」が22.3%、「知っていた」が17.7%となっています。また、「障害者と接する機会がある」市民の方が認知度は高くなっています。

【「障害者差別解消法」の認知状況】



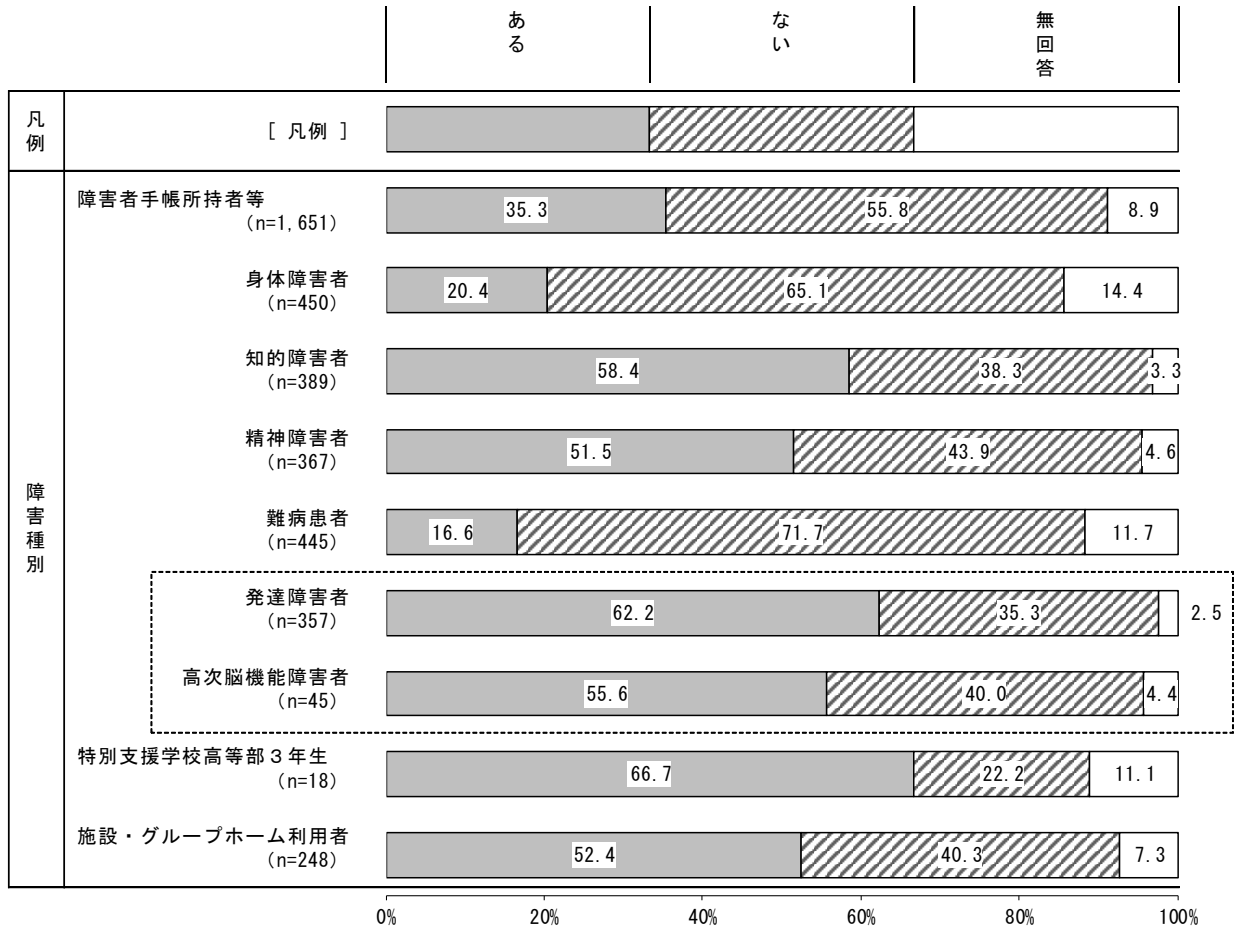
注) 「障害のない市民」で、障害者と接する機会の有無で無回答があるため、「障害者と接する機会がある」と「障害者と接する機会がない」の合計は「全体」と合いません。



(3) 障害があることで差別を受けたり嫌な思いをしたりすることはありますか。

- 障害があることで差別を受けたり嫌な思いをしたりすることの有無について、障害者手帳所持者等は「ない」、特別支援学校高等部3年生、施設・グループホーム利用者は「ある」が多くなっています。
- 障害者手帳所持者等の内訳では、身体障害者、難病患者は「ない」、知的障害者、精神障害者、発達障害者、高次脳機能障害者は「ある」が多くなっています。

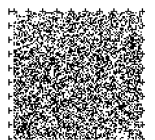
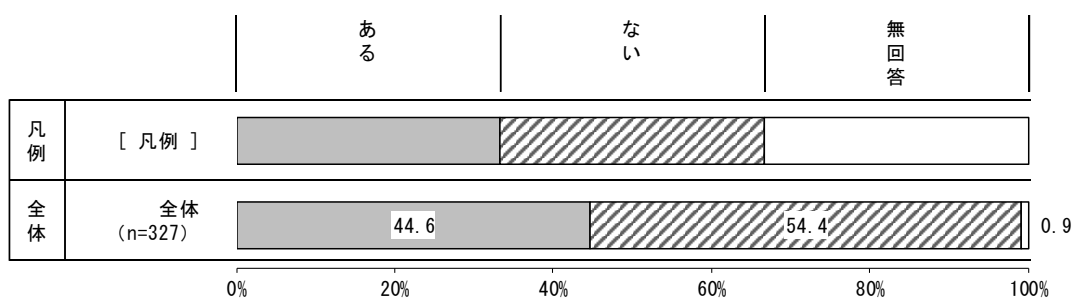
【障害があることで差別を受けたり嫌な思いをしたりすることの有無】



(4) 障害のある人への差別や偏見を感じたことはありますか。

- 障害のない市民では、差別や偏見を感じたことの有無について、「ある」が44.6%、「ない」が54.4%となっています。

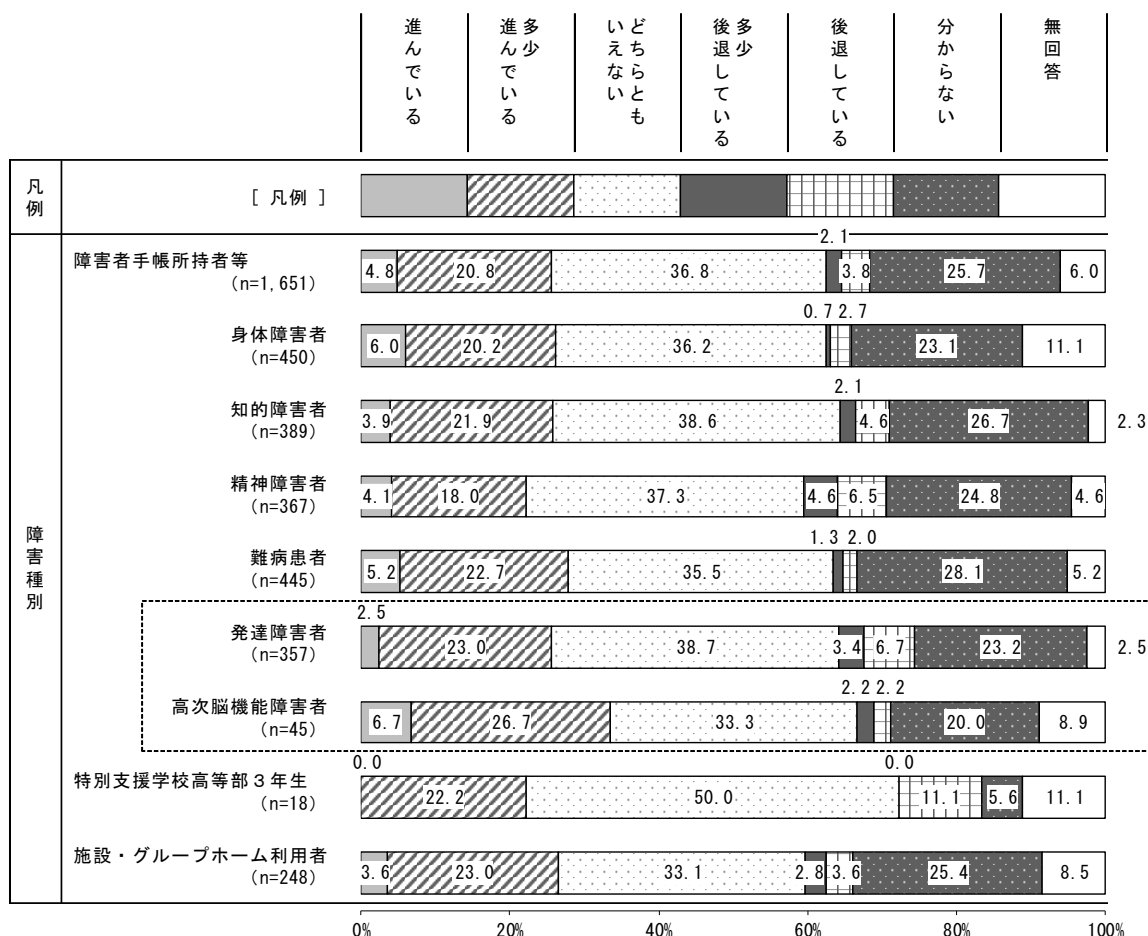
【差別や偏見を感じたことの有無 (障害のない市民)】



(5) 障害に対する市民の理解について、進んでいると感じますか。

- 障害に対する市民の理解が進んでいると感じるかについて、障害者手帳所持者等、特別支援学校高等部3年生、施設・グループホーム利用者いずれも「どちらともいえない」が最も多くなっています。

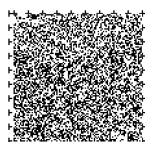
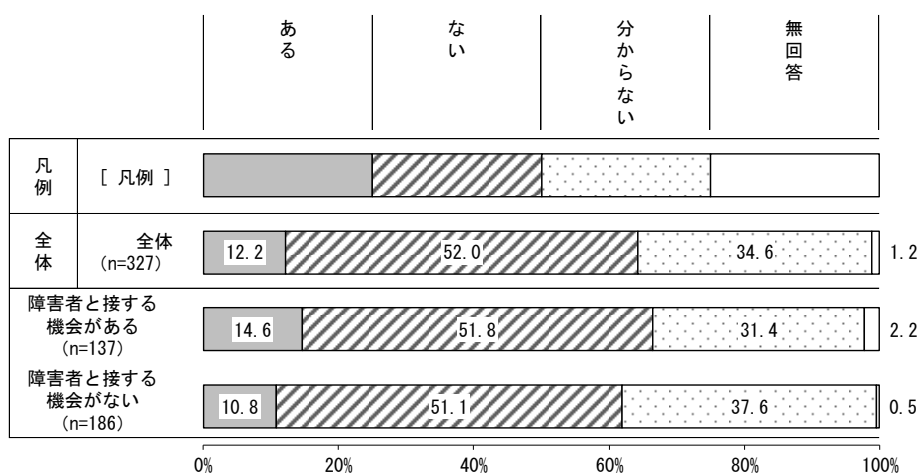
【障害に対する市民の理解が進んでいると感じるか】



(6) あなた自身に障害のある人に対して差別や偏見があると思いますか。

- 障害のない市民では、自身に差別や偏見があるかについて、「ない」が 52.0%で最も多く、次いで「分からない」が 34.6%、「ある」が 12.2%となっています。また、「障害者と接する機会がある」市民の方が「差別や偏見がある」は多くなっています。

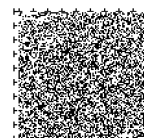
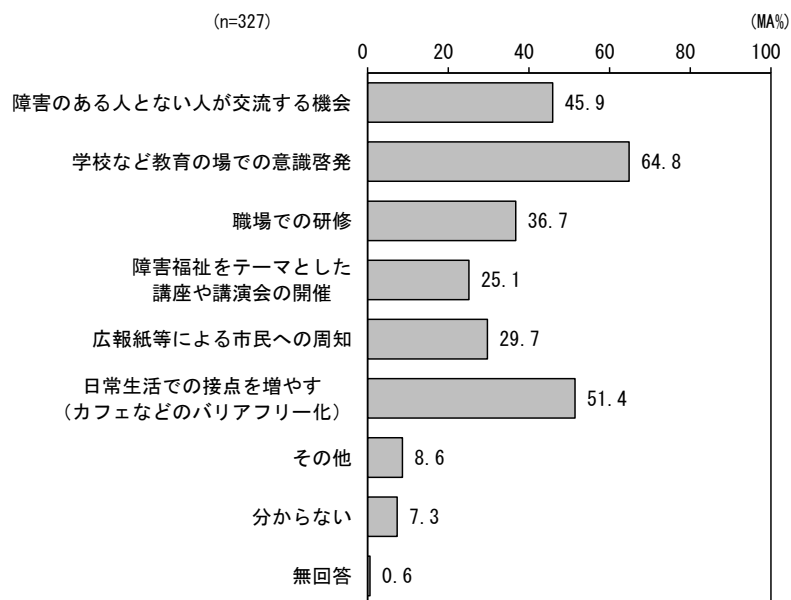
【自身に差別や偏見があるか（障害のない市民）】



(7) 障害のある人への誤解や偏見を解消するためにどのようなことが必要だと思いますか。(MA)

- 障害のない市民では、誤解や偏見を解消するために必要なことについて、「学校など教育の場での意識啓発」が64.8%で最も多く、次いで「日常生活での接点を増やす(カフェなどのバリアフリー化)」が51.4%、「障害のある人とない人が交流する機会」が45.9%となっています。

【誤解や偏見を解消するために必要なこと(障害のない市民)】



(8) 施策分野 1 に関連する自由記述 (抜粋)

■障害者理解のために力を入れるべきこと (当事者)

- ・ 障害児者の存在を知ってもらうことが必要。知らないから、怖い、私には関係ないと感じる人が多いと思う。小さい時から触れ合う機会があれば良いと思う。
- ・ “経験がない” “わからない” で怖がられてしまう事が多いので、ひとつひとつ必要なことを説明して実際、関わってもらうことが一番かと思います。
- ・ 障害者自身が困っている事などを伝え広めて行かないと、理解されないこともあるかと思えます。

■誤解や偏見を解消するために必要なこと (市民)

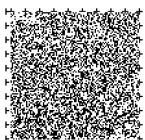
- ・ 障害者本人そして家族が何を望んでいるのか当事者の声を聴きたい。
- ・ 障害がある人の問題が理解できるように、日常的に接する場があればもっとスムーズに助け合うことができるのではないかと思います。

■障害者に対するイメージ (市民)

- ・ 社会生活をする上で大変なことが多くあると思いますが、健常者よりも何倍も努力し、前向きに生きているように感じます。
- ・ 頑張っていると思います。明るい障害のある人を見ると幸せに感じます。
- ・ たまたま障害があるだけで普通の人と変わらない。
- ・ 取り立ててどのようなイメージは意識していない。健常者と同じくいい人もいるし嫌な人もいる。
- ・ 人生の中で、何度か接する機会があった。障害を持っている方が、ポジティブな方だったので、わたしから壁を作ることはなかった。ポジティブじゃ無い人とのコミュニケーションは悩んでしまうかもしれない。

■障害のある人に偏見があると思う理由 (市民)

- ・ 電車に乗っているときに知的障害の方から怖い思いをさせられたことがある。知人や付き添いの人がいるとき以外は正直関わりたくないと思ってしまう。
- ・ ないように心がけているけれどやっぱりどこかで怖そうとか怖いと思ってしまうことがあるので。
- ・ 配慮が必要になるため。その配慮が健常者の負担になっていることがわかるため。
- ・ 障害のある子がいるが、公共の場などでパニックを起こしたり騒いでしまうと何故普通に来れないのか恥ずかしく感じてしまうから。
- ・ 偏見や差別意識を変えられるきっかけに出会っていないため。



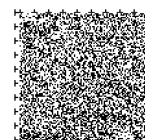
1-2. 「差別解消・相互理解・権利擁護」に関する見えてくる課題

① 依然として残る差別や偏見意識

- ・ 障害者手帳所持者等では、障害があることで差別を受けたり嫌な思いをしたりすることが「ある」と回答した割合は35.3%と、前回(令和4年度実施)調査の42.0%から6.7ポイント下がっています。
- ・ 特に、精神・知的・発達・高次脳機能障害者、特別支援学校高等部3年生、施設・グループホーム利用者は差別を感じる割合が高く、市民の障害への理解は当事者全体で「進んでいる」「多少進んでいる」を合わせても3割弱の回答がほとんどです。
- ・ 障害のない市民では、「障害のある人と接する機会の有無」別に結果を見ると、接する機会がある人の方が「差別や偏見がある」と回答した割合が高くなっていました。
- ・ 自由記述からは、障害者手帳所持者等は「知ってもらいたい」と思っており、障害のない市民も「何を求めているか知りたい」と思っています。また、「知らないこと」が差別や偏見につながっている可能性がある一方で、「知っていること」がネガティブな印象を持つ要因となっている可能性も読み取れます。差別意識がある理由を「偏見や差別意識を変えられるきっかけに出会っていないため」と回答している人もいます。
- ・ また、障害のない市民の「誤解や偏見を解消するために必要なこと」について、「学校など教育の場での意識啓発」が64.8%で最も多く、次いで「日常生活での接点を増やす(カフェなどのバリアフリー化)」(51.4%)、「障害のある人とない人が交流する機会」(45.9%)となっており、教育や交流を通じた理解促進を必要とする方が多くなっています。

② 「障害者差別解消法」等の認知度

- ・ 障害者手帳所持者等の「差別解消法」の認知度は31.0%、障害のない市民の認知度は40.0%となっています。また、障害のない市民では、「障害のある人と接する機会の有無」別に結果を見ると、接する機会がある人の方が「差別解消法」等の認知度が高い傾向が見られました。



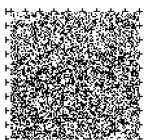
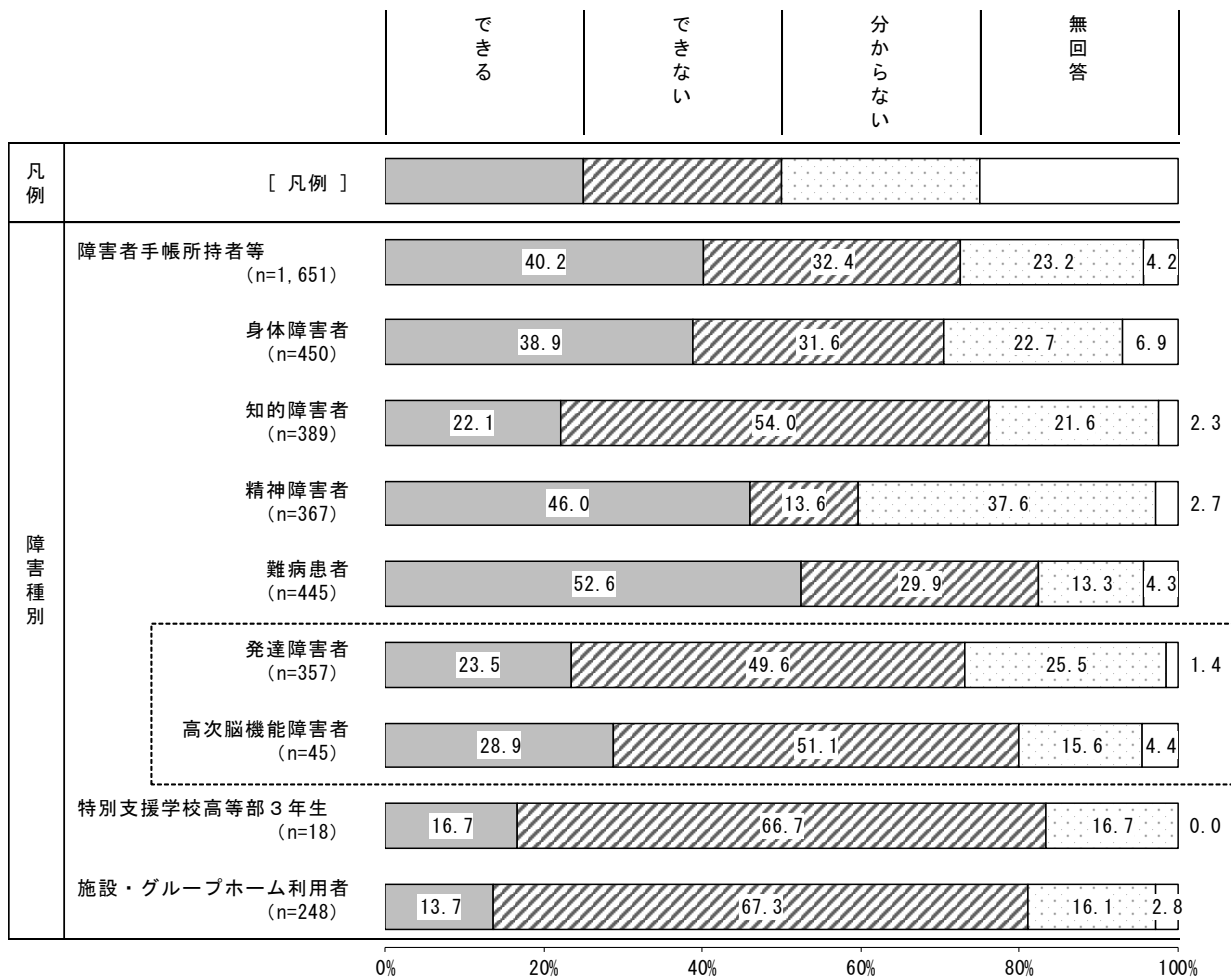
2. 住みよい福祉のまちづくり

2-1. 「住みよい福祉のまちづくり」に関する調査結果

(1) 災害時に一人（自力）で避難することはできますか。

- 災害時の避難の可否について、障害者手帳所持者等は「できる」、特別支援学校高等部3年生、施設・グループホーム利用者は「できない」が最も多くなっています。
- 障害者手帳所持者等の内訳では、身体障害者、精神障害者、難病患者は「できる」、知的障害者、発達障害者、高次脳機能障害者は「できない」が最も多くなっています。

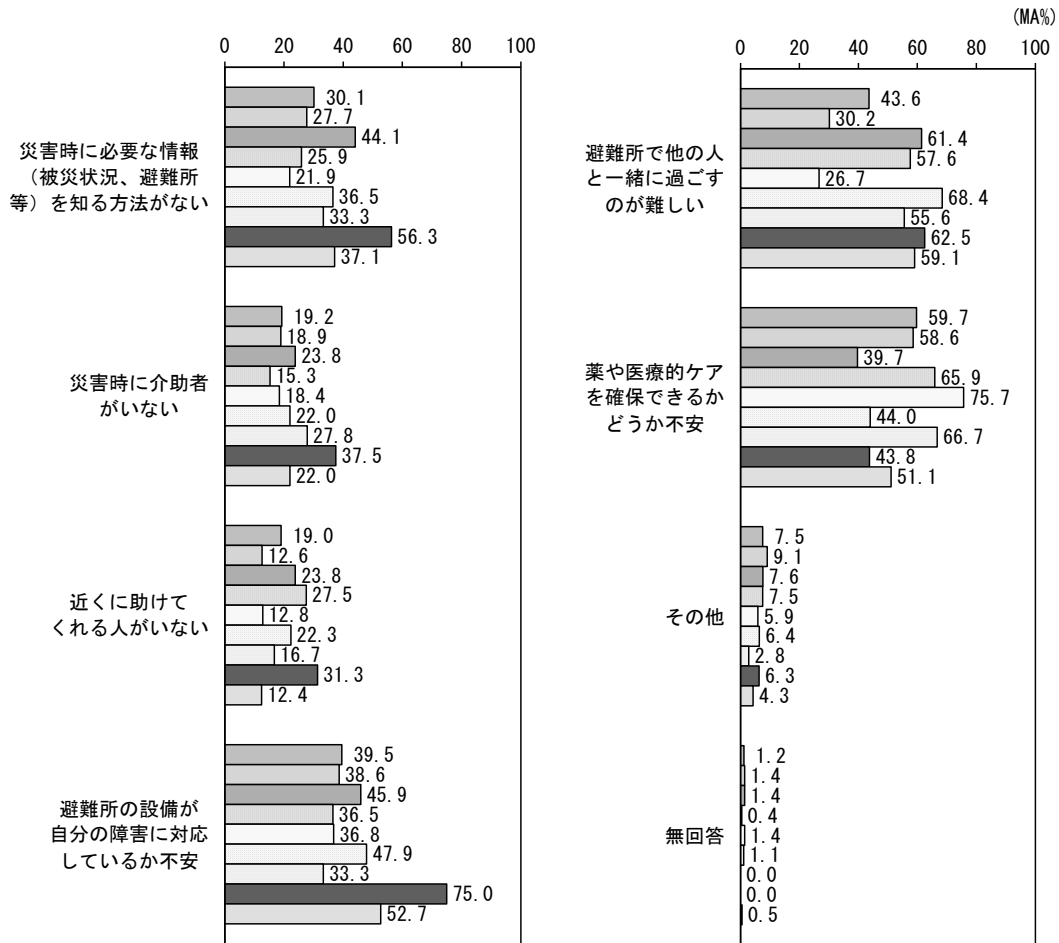
【災害時の避難の可否】



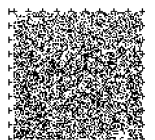
(2) 災害発生時に困ることや不安なことは何ですか。(MA)

- 災害発生時に困ることや不安なことについて、障害者手帳所持者等は「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」、特別支援学校高等部3年生は「避難所の設備が自分の障害に対応しているか不安」、施設・グループホーム利用者は「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が最も多くなっています。
- 障害者手帳所持者等の内訳では、身体障害者、精神障害者、難病患者、高次脳機能障害者は「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」、知的障害者、発達障害者は「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が最も多くなっています。

【災害発生時に困ることや不安なこと】



- 障害者手帳所持者等 (n=1,118)
- 身体障害者 (n=285)
- 知的障害者 (n=290)
- 精神障害者 (n=255)
- 難病患者 (n=288)
- 発達障害者 (n=282)
- 高次脳機能障害者 (n=36)
- 特別支援学校高等部3年生 (n=16)
- 施設・グループホーム利用者 (n=186)



(3) 施策分野2に関連する自由記述（抜粋）

■災害時に困ること（当事者）

- ・ 投薬が十分に行えるか不安。
- ・ コミュニケーションがとれるか不安。
- ・ 親がいない時にどうすれば良いかわからない。

■災害時に望む支援（当事者）

- ・ 医療的ケアに必要な物資や場所の確保。
- ・ 災害時に必要な情報を得る方法が分からない。
- ・ 避難所までの介助が必要。
- ・ 準備しておくの良い防災グッズ一覧があれば、分かりやすく助かると思います。
- ・ 障害者に詳しい人を避難所に配置して欲しい。避難所を分けることができるなら、分けた方が良い。
- ・ 健常者とは別の避難所があると助かる。
- ・ 病院や医療対応施設への避難ができるようにしてほしい。
- ・ 川越特別支援学校が通常の避難所がいっぱいになった際の障害者の避難場所となると聞いたことがあるが、障害のある子供を連れて歩くのは非常に負担なので初めからそこに避難したい。
- ・ 福祉避難所を開設し優先して案内して欲しい。
- ・ どこに支援の必要な人がいるのか事前の把握と災害時の具体的な対応のシミュレーションを望みます。

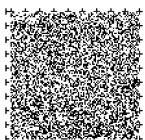
2-2. 「住みよい福祉のまちづくり」に関する見えてくる課題

① 災害時の薬の確保や避難所設備への不安

- ・ 災害時に困っていることや不安なこととして、「薬や医療的ケアを確保できるか不安」、「避難所の設備が自分の障害に対応しているか不安」が上位の回答となっており、自由記述でも、薬や設備の確保への不安や、避難所で共同生活への不安がある人が多くなっています。
- ・ 自由記述においても、災害時に必要な情報を得る方法や、必要な防災グッズ情報の提供などの声もあり、障害者に特化した情報の提供が求められています。
- ・ また、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」との回答も多く、特に精神・知的・発達・高次脳機能障害者、特別支援学校高等部3年生、施設・グループホーム利用者が多くみられています。自由記述においても、避難所を分けてほしいとの要望も多く見られました。

② 必要な情報取得や具体的な訓練

- ・ 障害者手帳所持者等の32.4%（知的障害者の54.0%、発達障害者の49.6%、高次脳機能障害の51.1%）、特別支援学校高等部3年生の66.7%、施設・グループホーム利用者の67.3%が自力で避難できないと回答しています。
- ・ 自由記述では、避難所まで行くための介助、災害時の具体的なシミュレーションを求める声が見られ、自力避難が困難な人への対応や介助者を含めた日頃の訓練や備えが必要とされています。



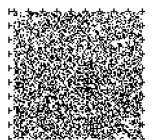
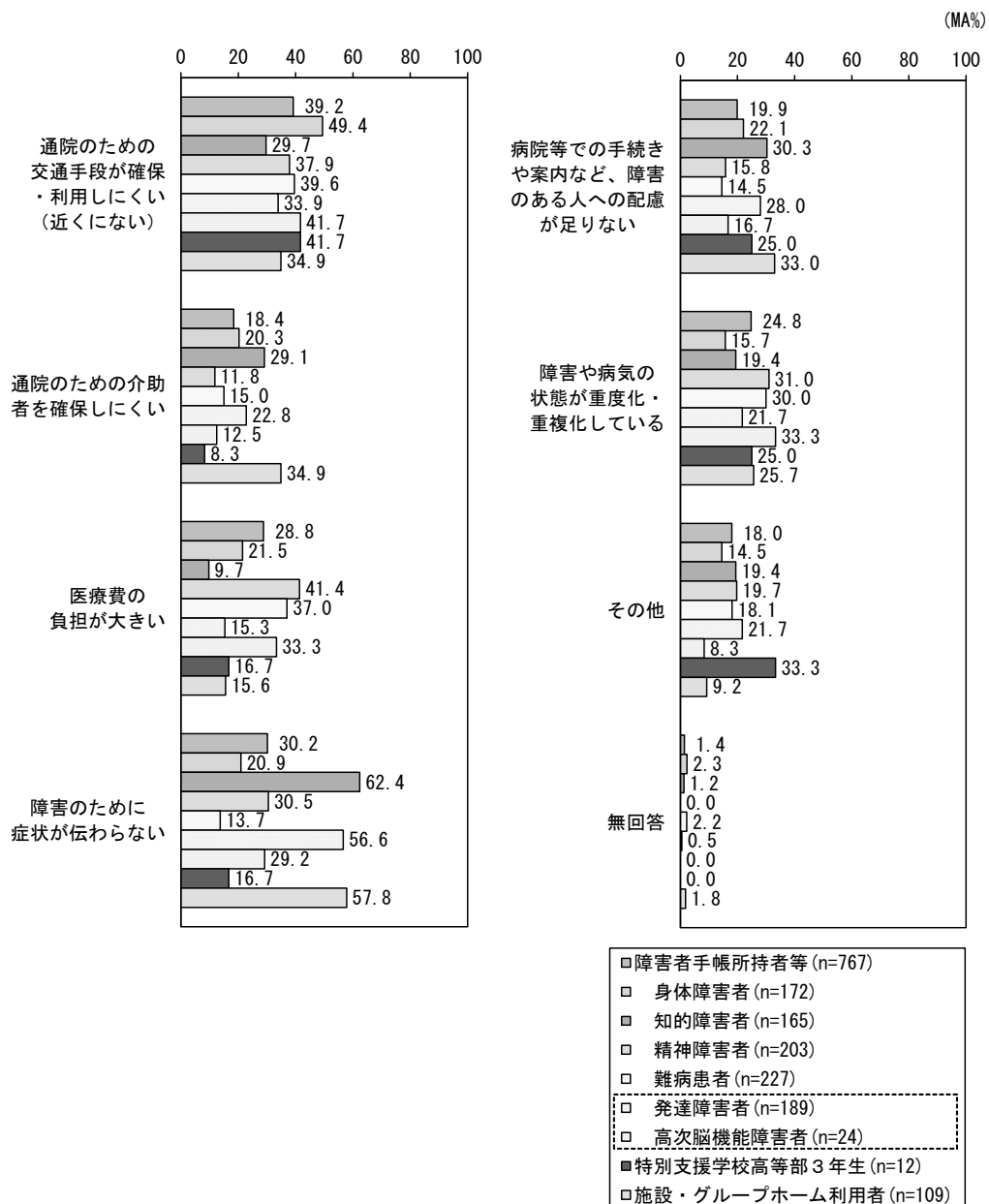
3. 保健・医療サービスの充実

3-1. 「保健・医療サービスの充実」に関する調査結果

(1) 健康管理や医療で困ったり不便に思うことは何ですか。(MA)

- 健康管理や医療で困ったり不便に思うことについて、障害者手帳所持者等、特別支援学校高等部3年生は「通院のための交通手段が確保・利用しにくい（近くにない）」、施設・グループホーム利用者は「障害のために症状が伝わらない」が最も多くなっています。
- 障害者手帳所持者等の内訳では、身体障害者、難病患者、高次脳機能障害者は「通院のための交通手段が確保・利用しにくい（近くにない）」、知的障害者、発達障害者は「障害のために症状が伝わらない」、精神障害者は「医療費の負担が大きい」が最も多くなっています。

【健康管理や医療で困ったり不便に思うこと】



(2) 施策分野3に関連する自由記述（抜粋）

■健康管理や医療について困ったり不便に思うこと（当事者）

- ・ 介護タクシーを往復で利用しており、移動費が高額である。
- ・ 家族に負担がかかる。（通院の際）
- ・ 手続きが複雑である。具合がよくないときは、負担が大きく感じる。
- ・ 市役所に手続きに行くのが大変。
- ・ 職場の人の理解や、日常生活での病状悪化など、本人にしか分からない症状を伝えるのが難しい。
- ・ 相談しても何も解決しないので、薬をもらうための診療になっている。

3-2. 「保健・医療サービスの充実」に関する見えてくる課題

① 通院にかかる移動費用の負担

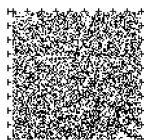
- ・ 困りごととして、障害者手帳所持者等では「通院のための交通手段が確保・利用しにくい」が39.2%と最も多く、自由記述でも、移動費用を負担に感じているとの意見も見られました。

② 行政手続きの負担

- ・ 困りごとに関する自由記述として、手続きの複雑さ、来庁負担に関する意見が見られました。体調が不安定な時期には、手続きそのものが大きな負担となり、必要な支援や制度利用に支障が生じているおそれがあります。

③ 医療と福祉の連携

- ・ 困りごととして、知的・発達障害者や施設・グループホーム利用者は「障害のために症状が伝わらない」との回答が多くなっています。
- ・ また、自由記述では「相談しても解決しないため、薬をもらうための診療になっている」など、医療と生活課題（福祉サービス利用等）が十分につながっていない状況がうかがえました。
- ・ 医療機関と相談支援・福祉サービスが連携し、状況が適切に伝わり必要な支援につなぐ仕組みづくりが求められています。



Ⅱ. 自立を尊重し、総合的な支援が受けられるまち

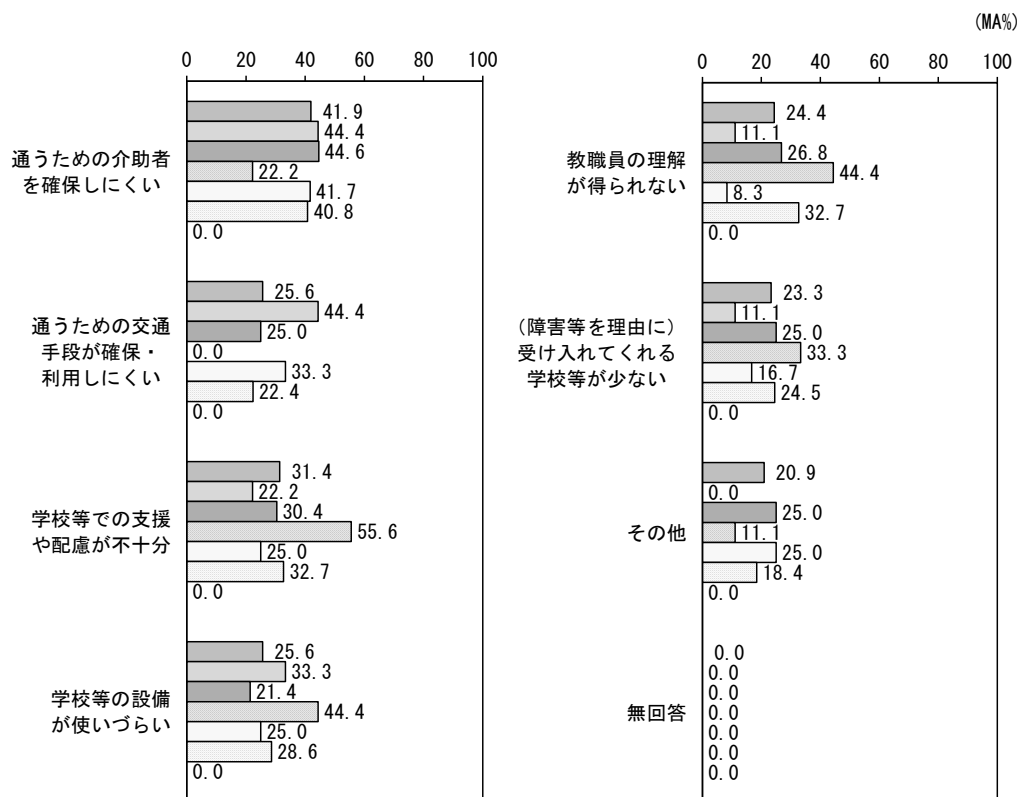
4. 療育体制及び学習機会の充実

4-1. 「療育体制及び学習機会の充実」に関する調査結果

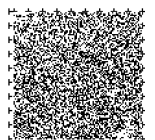
(1) 通園・通学にあたって困っていることは何ですか。(MA)

- 障害者手帳所持者等の通園・通学にあたって困っていることについて、「通うための介助者を確保しにくい」が41.9%で最も多く、次いで「学校等での支援や配慮が不十分」が31.4%、「通うための交通手段が確保・利用しにくい」「学校等の設備が使いづらい」が25.6%となっています。
- 障害者手帳所持者等の内訳では、身体障害者は「通うための介助者を確保しにくい」と「通うための交通手段が確保・利用しにくい」、知的障害者、難病患者、発達障害者は「通うための介助者を確保しにくい」、精神障害者は「学校等での支援や配慮が不十分」が最も多くなっています。

【通園・通学にあたって困っていること】



- 障害者手帳所持者等 (n=86)
- 身体障害者 (n=9)
- 知的障害者 (n=56)
- 精神障害者 (n=9)
- 難病患者 (n=12)
- 発達障害者 (n=49)
- 高次脳機能障害者 (n=0)



(2) 施策分野4に関連する自由記述（抜粋）

■幼稚園や保育所、学校等に通うにあたって困っていること（当事者）

- ・ 川越市にも保育園・幼稚園の中に療育支援が受けられる所があればとても助かります。
- ・ 小学生一年生で支援級に通うダウン症児だが、放課後デイサービスの利用において不安感を感じる事が多い。事業所によっては周囲の子供達の発達レベルに合わせており、自閉症など知的遅れのない子供たちに混ざって活動するのが困難なケースがある。送迎などの条件で選択肢も元々狭い中、利用の門戸を広げる政策が開始されるとなると、不安が大きい。小学校では支援級でよくサポートしていただいている。
- ・ 教職員が支援級の子供に対しての理解や障害、福祉サービスの事など知らない（知らなさすぎる）。
- ・ 予算を理由に支援員を付けるのが難しいと言われる。1つの学校につき、支援員が少ないのではないか。
- ・ 宿泊学習の際、与薬はできないとのことで親と一緒に引率しなくてはならない。ホテル代など親もかかり、負担が大きい。

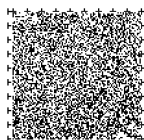
4-2. 「療育体制及び学習機会の充実」に関する見えてくる課題

① 通園・通学するための介助者や移動手段の確保

- ・ 幼稚園や保育所、学校等に通うにあたって困っていることとして、「通うための介助者を確保しにくい」が41.9%で最も多く、「通うための交通手段が確保・利用しにくい」も25.6%と3番目に多くなっており、通園・通学のための支援が求められています。

② 療育体制の整備及び学校生活等における支援の提供

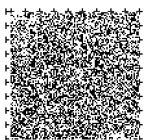
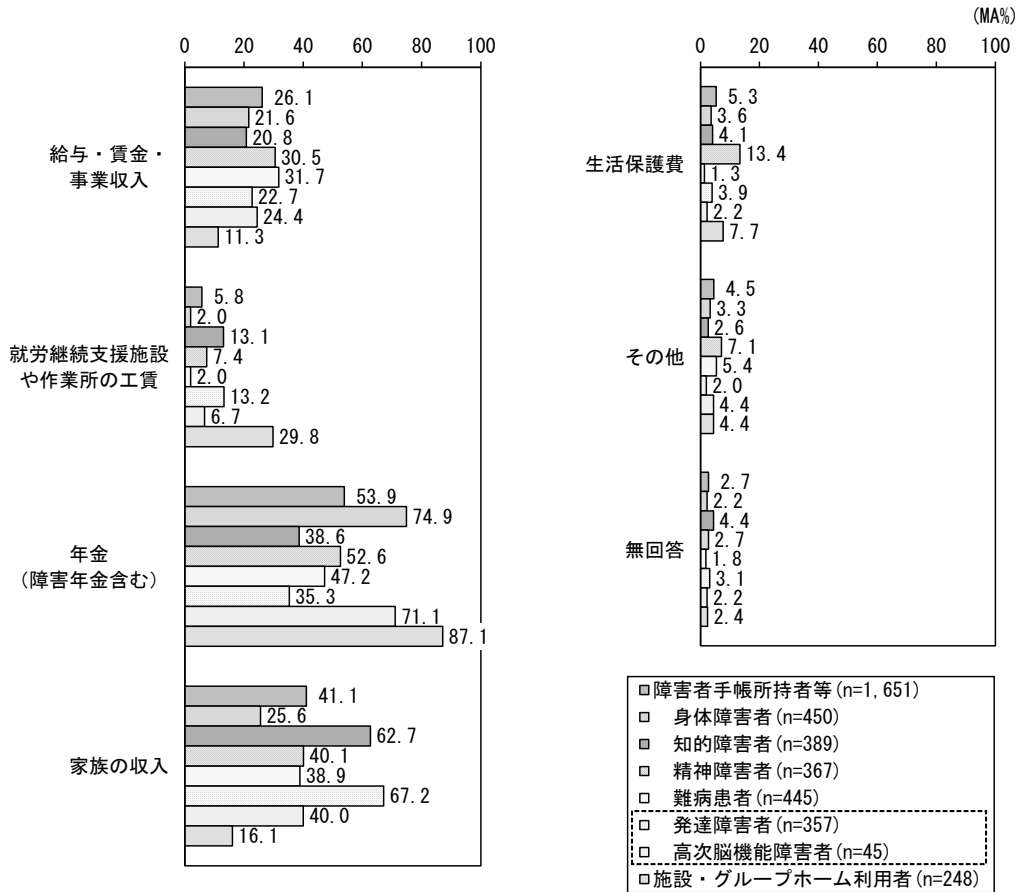
- ・ 自由記述では、放課後等デイサービス等の受入状況への不安や、宿泊学習時の与薬対応ができず親の同伴が必要になるなど、学校での活動が家族負担に転化している実態が見られました。また、教職員が障害特性や福祉サービスに関する理解が十分でないことや、支援員配置が難しいといった意見が見られています。
- ・ そのため、学校生活における合理的配慮の提供や、必要な支援を適切に提供できる体制（理解促進・人員確保）の確保が求められていると考えます。



(2) あなたの生活を支えている収入は次のうちどれですか。(MA)

- 収入源について、障害者手帳所持者等、施設・グループホーム利用者ともに「年金（障害年金含む）」が最も多くなっています。
- 障害者手帳所持者等の内訳では、身体障害者、精神障害者、難病患者、高次脳機能障害者は「年金（障害年金含む）」、知的障害者、発達障害者は「家族の収入」が最も多くなっています。

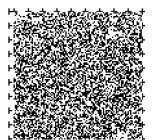
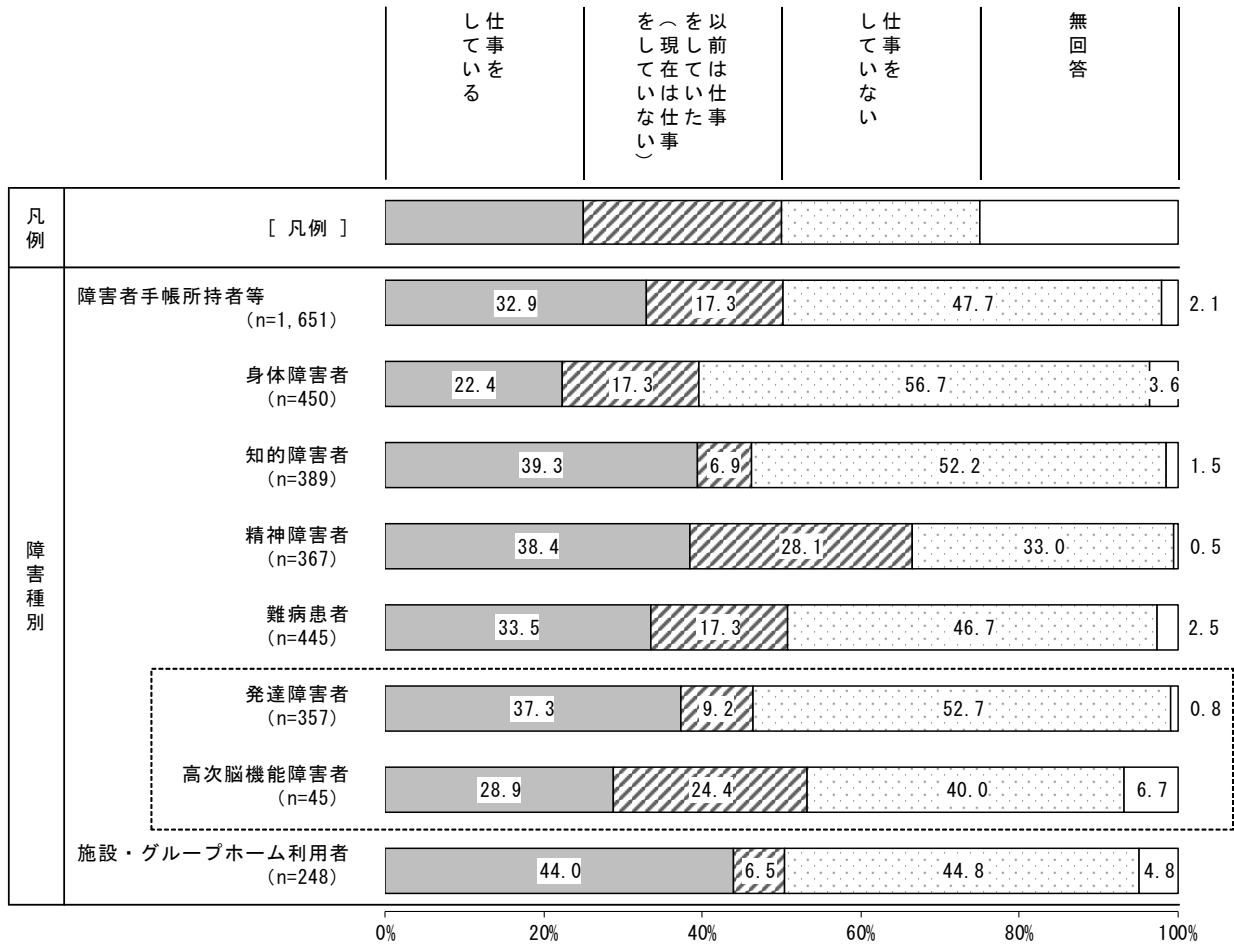
【収入源】



(3) 現在、仕事をしていますか。

- 仕事の有無について、障害者手帳所持者等、施設・グループホーム利用者ともに「仕事をしていない」が最も多くなっています。
- 障害者手帳所持者等の内訳では、身体障害者、知的障害者、難病患者、発達障害者、高次脳機能障害者は「仕事をしていない」、精神障害者は「仕事をしている」が最も多くなっています。

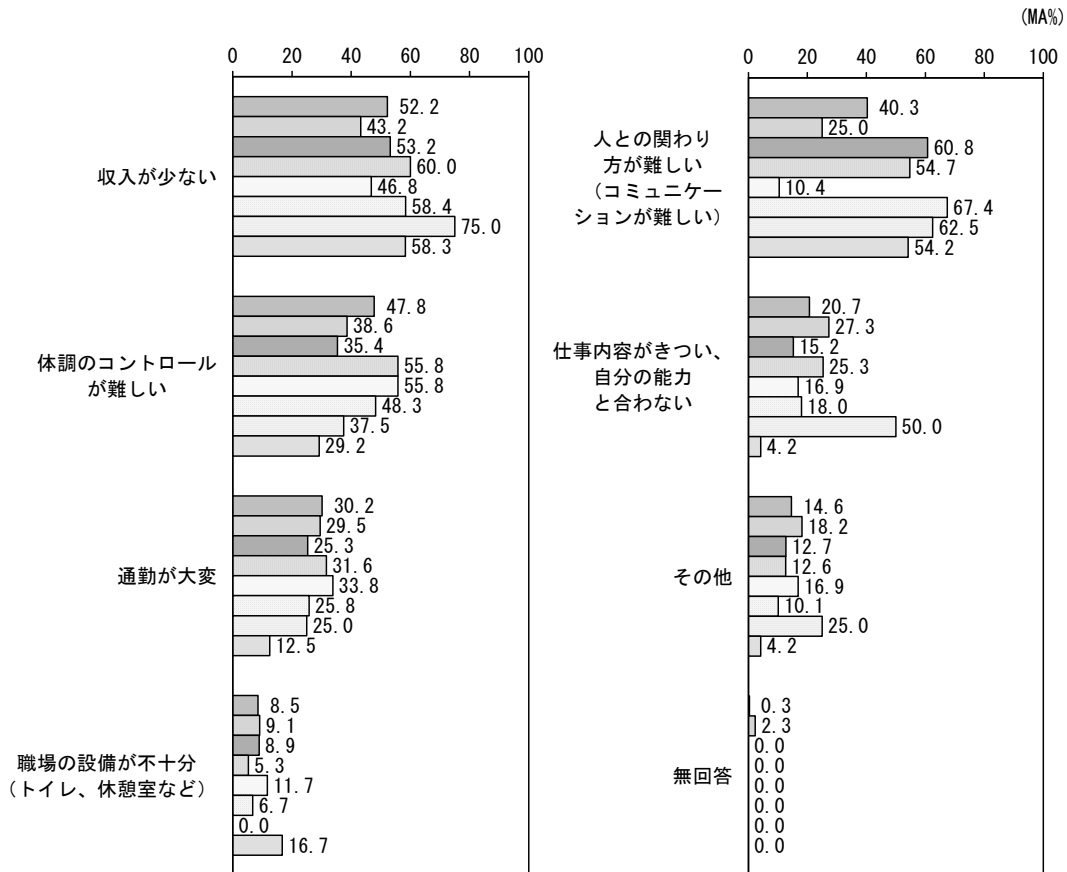
【仕事の有無】



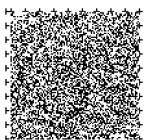
(4) 仕事をする上で主に困っていることは何ですか。(MA)

- 仕事をする上で困っていることについて、障害者手帳所持者等、施設・グループホーム利用者ともに「収入が少ない」が最も多くなっています。
- 障害者手帳所持者等の内訳では、身体障害者、精神障害者、高次脳機能障害者は「収入が少ない」、知的障害者、発達障害者は「人との関わり方が難しい（コミュニケーションが難しい）」、難病患者は「体調のコントロールが難しい」が最も多くなっています。

【仕事をする上で困っていること】



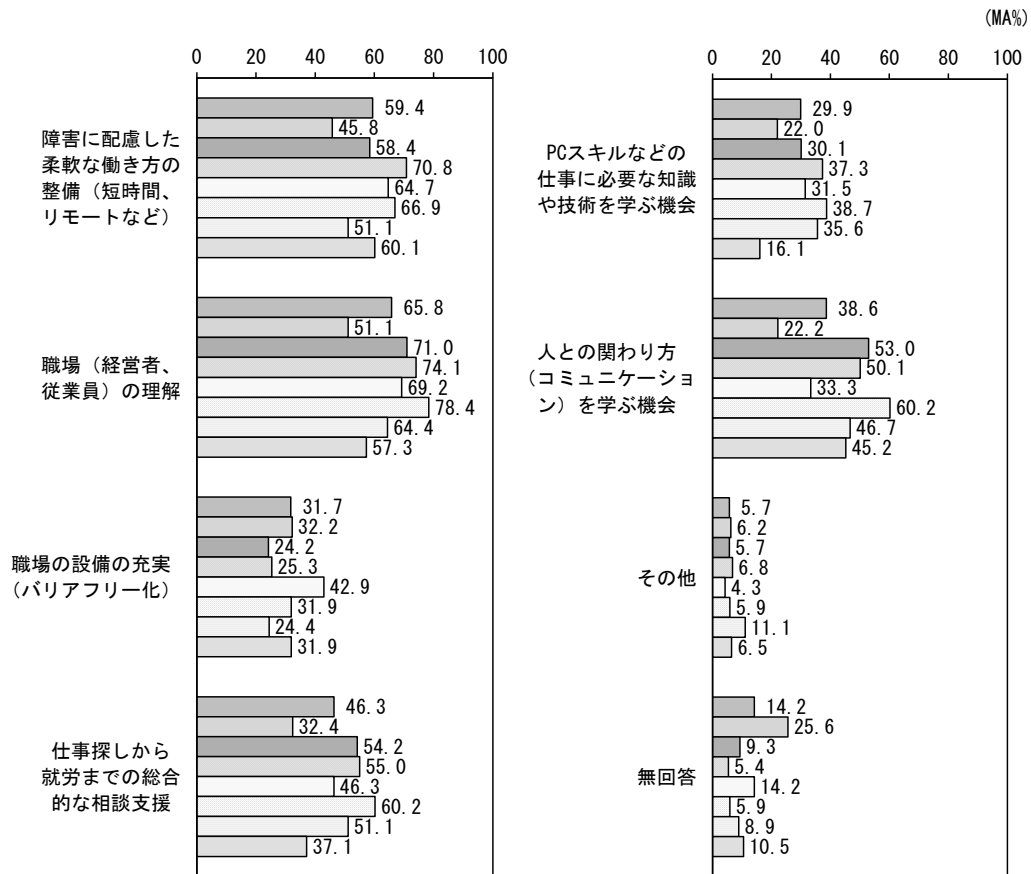
- 障害者手帳所持者等 (n=295)
- 身体障害者 (n=44)
- 知的障害者 (n=79)
- 精神障害者 (n=95)
- 難病患者 (n=77)
- 発達障害者 (n=89)
- 高次脳機能障害者 (n=8)
- 施設・グループホーム利用者 (n=48)



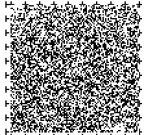
(5) 障害のある人の就労を促進するためには何が必要だと思いますか。(MA)

○ 障害のある人の就労を促進するために必要なことについて、障害者手帳所持者等は「職場（経営者、従業員）の理解」、施設・グループホーム利用者は「障害に配慮した柔軟な働き方の整備（短時間、リモートなど）」が最も多くなっています。

【障害のある人の就労を促進するために必要なこと】



- 障害者手帳所持者等 (n=1,651)
- 身体障害者 (n=450)
- 知的障害者 (n=389)
- 精神障害者 (n=367)
- 難病患者 (n=445)
- 発達障害者 (n=357)
- 高次脳機能障害者 (n=45)
- 施設・グループホーム利用者 (n=248)



(6) 施策分野5に関連する自由記述（抜粋）

■仕事をする上で困っていること（当事者）

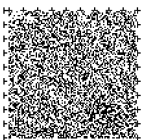
- ・ 現在服用している難病の薬が利尿作用が非常に強いので、トイレの頻度が多い。毎日業務が忙しいので、トイレに行きづらい。業務の状況によっては薬を飲むのを控えたりしている。
- ・ 仕事をあまり頂けず、自習をすることが多いです。現在の職場には自分の適性やスキルに合った仕事が無いということと解釈しており、それでも賃金をいただけるのはありがたいことだと思う反面、このままではよくないと思っています。
- ・ 自分がASDであることを同僚に伝えるか否か。
- ・ 病気を理解してもらうのが難しい。
- ・ 障害者雇用で働いている方が最初、偏見を受けることもあり、体力仕事を押しつけられることも多い（通勤時休みづらい）。1年間に10日しか有休がない。
- ・ もっと仕事がしたい。

■仕事を辞めた理由（当事者）

- ・ 病気に対する職場の理解を得られなかったから。
- ・ 職場内でのいじめにあい、精神疾患を発症した、自殺未遂をした。
- ・ 職場でのセクハラといじめで職を転々として、うつ病になった。

■就労促進のために必要なこと（当事者）

- ・ 職場の人達の理解を進めるための研修。
- ・ 社会が障害者でも働けるという事を知ること、一緒に仕事をできるということなど、偏見を解消するような取り組みが必要。
- ・ 自身の障害の理解や対処法について理解を深める機会。
- ・ 障害者、非障害者それぞれが、障害者の就労について正しい意識を身につけること。
- ・ 働ける場所を選択できるくらい就労場所があること。
- ・ 出来る事は草むしり等、身体に負担の少ない事に限られるが、体調を配慮して出来る事をさせてほしい。
- ・ 障害者に対しての支援等が市役所で申請したり、その場に行かないとわからないし、お知らせが入ってこない。
- ・ 就労支援に通っても、情報が入ってこないから動きたくても動けなくて困っている。



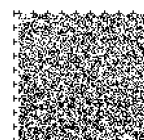
5-2. 「雇用・就労の促進」に関する見えてくる課題

① 職場における合理的配慮の提供

- ・知的・精神・発達障害者、施設・グループホーム利用者は、仕事をする上で「人とのかかわり方」に困っている方が多く、それを学ぶ機会も求められています。また、精神障害者、難病の方は、「体調のコントロールの難しさ」に困っている方が多くいます。
- ・自由記述では、人間関係、体力面、休暇の取りにくさ、障害や病気への理解不足、トイレ利用や服薬の調整など、就労継続に直結する多様な困りごとが見られました。
- ・また、嫌がらせやいじめ、セクハラ等により心身の不調につながった経験も見られ、職場の理解や配慮の不足が就労継続へ影響を及ぼす恐れがあります。このため、合理的配慮の浸透や、困りごとが生じた際に支援につながる仕組みの確保が必要と考えます。

② 障害特性に応じた就労機会の不足

- ・障害者の就労促進と定着のためには、職場の理解促進が最も高くなっていますが、「障害に配慮した柔軟な働き方の整備（短時間、リモートなど）」、「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」が比較的高く、障害や体調に配慮した柔軟な働き方の普及、マッチング支援も求められています。
- ・さらに自由記述では、「障害者が働ける場所」「働ける場所を選択できるくらい就労場所があること」といった意見が見られています。
- ・本人の特性や希望に合った働き方の選択肢が十分でない場合、就労意欲があっても就労につながりにくい恐れがあるため、就労機会の拡充が必要と考えます。



Ⅲ. 一人ひとりに配慮した支援が受けられるまち

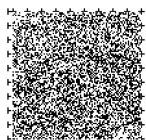
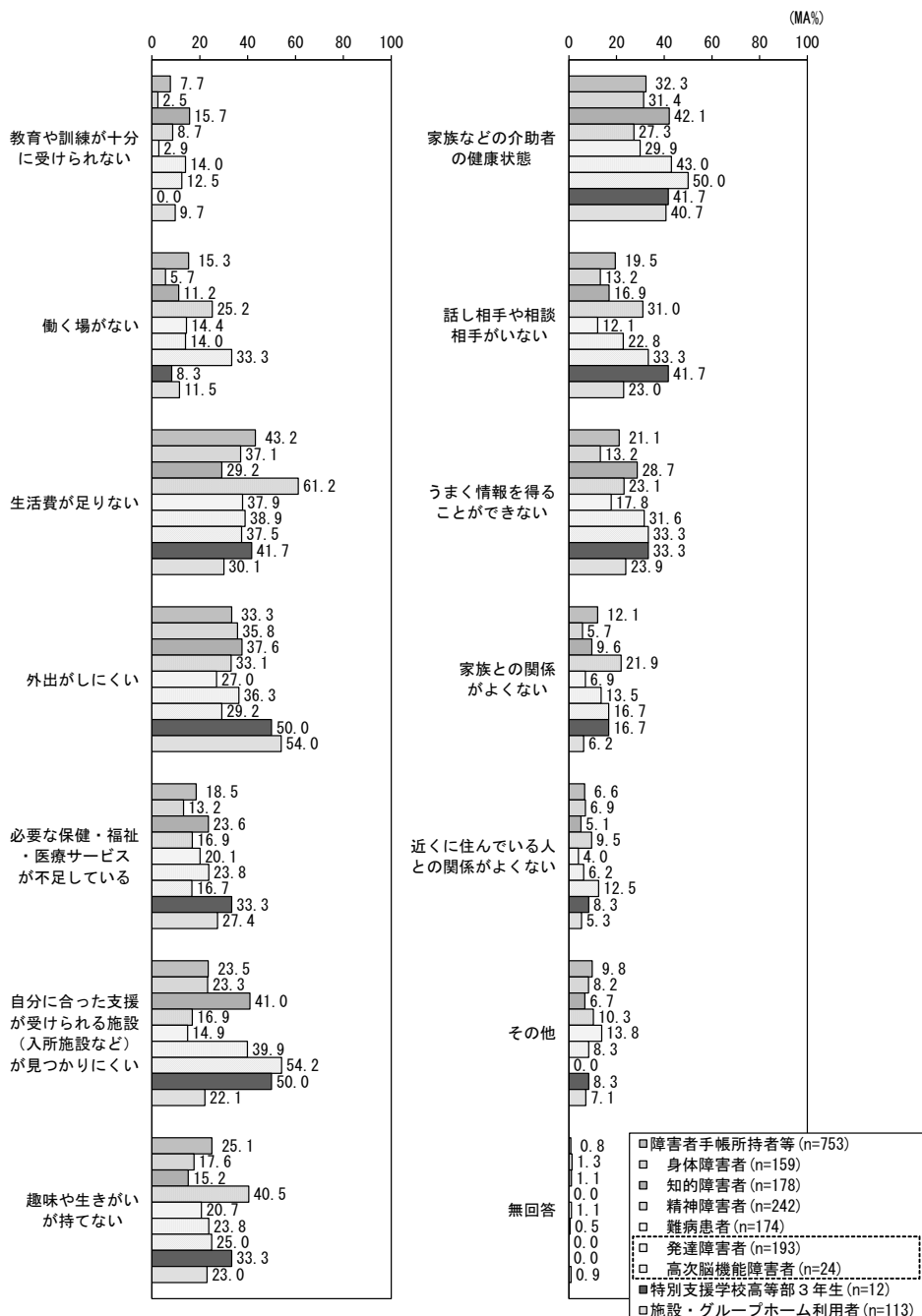
6. 福祉サービスの充実・向上

6-1. 「福祉サービスの充実・向上」に関する調査結果

(1) 現在の生活で困っていることや悩んでいることは何ですか。(MA)

- 現在の生活で困っていることや悩んでいることについて、障害者手帳所持者等は「生活費が足りない」、特別支援学校高等部3年生は「外出がしにくい」と「自分に合った支援が受けられる施設（入所施設など）が見つかりにくい」、施設・グループホーム利用者は「外出がしにくい」が最も多くなっています。
- 障害者手帳所持者等の内訳では、身体障害者、精神障害者、難病患者は「生活費が足りない」、知的障害者、発達障害者は「家族などの介助者の健康状態」、高次脳機能障害者は「自分に合った支援が受けられる施設（入所施設など）が見つかりにくい」が最も多くなっています。

【現在の生活で困っていることや悩んでいること】

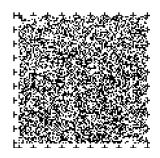
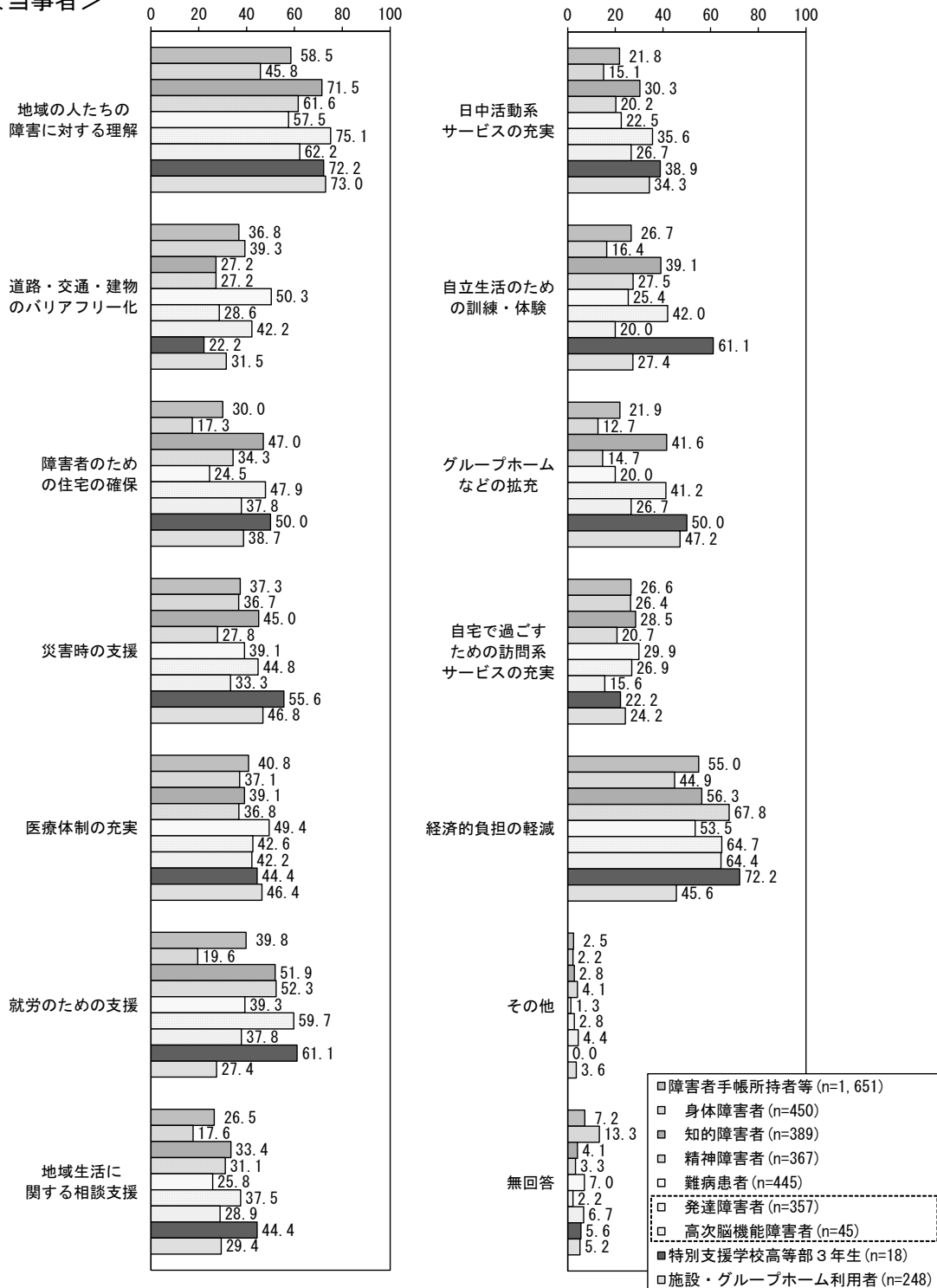


(2) 障害のある人が地域で生活していくためには何が必要だと思いますか。(MA)

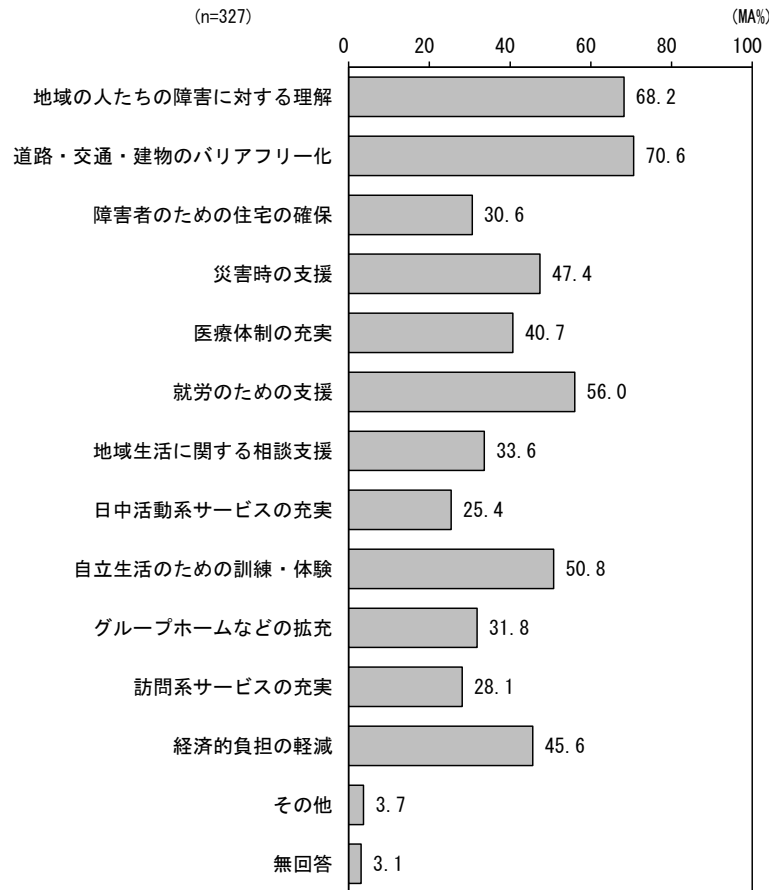
- 障害のある人が地域で生活していくために必要なことについて、障害者手帳所持者等、施設・グループホーム利用者は「地域の人たちの障害に対する理解」、特別支援学校高等部3年生は「地域の人たちの障害に対する理解」と「経済的負担の軽減」が最も多くなっています。
- 障害者手帳所持者等の内訳では、身体障害者、知的障害者、難病患者、発達障害者は「地域の人たちの障害に対する理解」、精神障害者、高次脳機能障害者は「経済的負担の軽減」が最も多くなっています。
- 障害のない市民では、「道路・交通・建物のバリアフリー化」が70.6%で最も多く、次いで「地域の人たちの障害に対する理解」が68.2%、「就労のための支援」が56.0%となっています。

【障害のある人が地域で生活していくために必要なこと】
(MA%)

<当事者>



<障害のない市民>



(3) 次の障害福祉サービスを利用していますか。今後3年以内にどのくらい利用したいですか。

【障害者手帳所持者等】

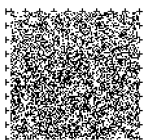
- 利用状況について、「あり」が最も多い項目は、「19 計画相談支援」が15.6%で最も多く、次いで、「23 放課後等デイサービス」が7.0%、「6 生活介護」が5.8%となっています。
- 今後の利用予定について、「増やす・今後利用する予定」が最も多い項目は、「8 短期入所（ショートステイ）」が9.8%で最も多く、次いで、「19 計画相談支援」が8.2%、「15 就労移行支援」「17 就労継続支援B型」「18 就労定着支援」が6.5%となっています。

【特別支援学校高等部3年生】

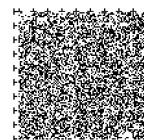
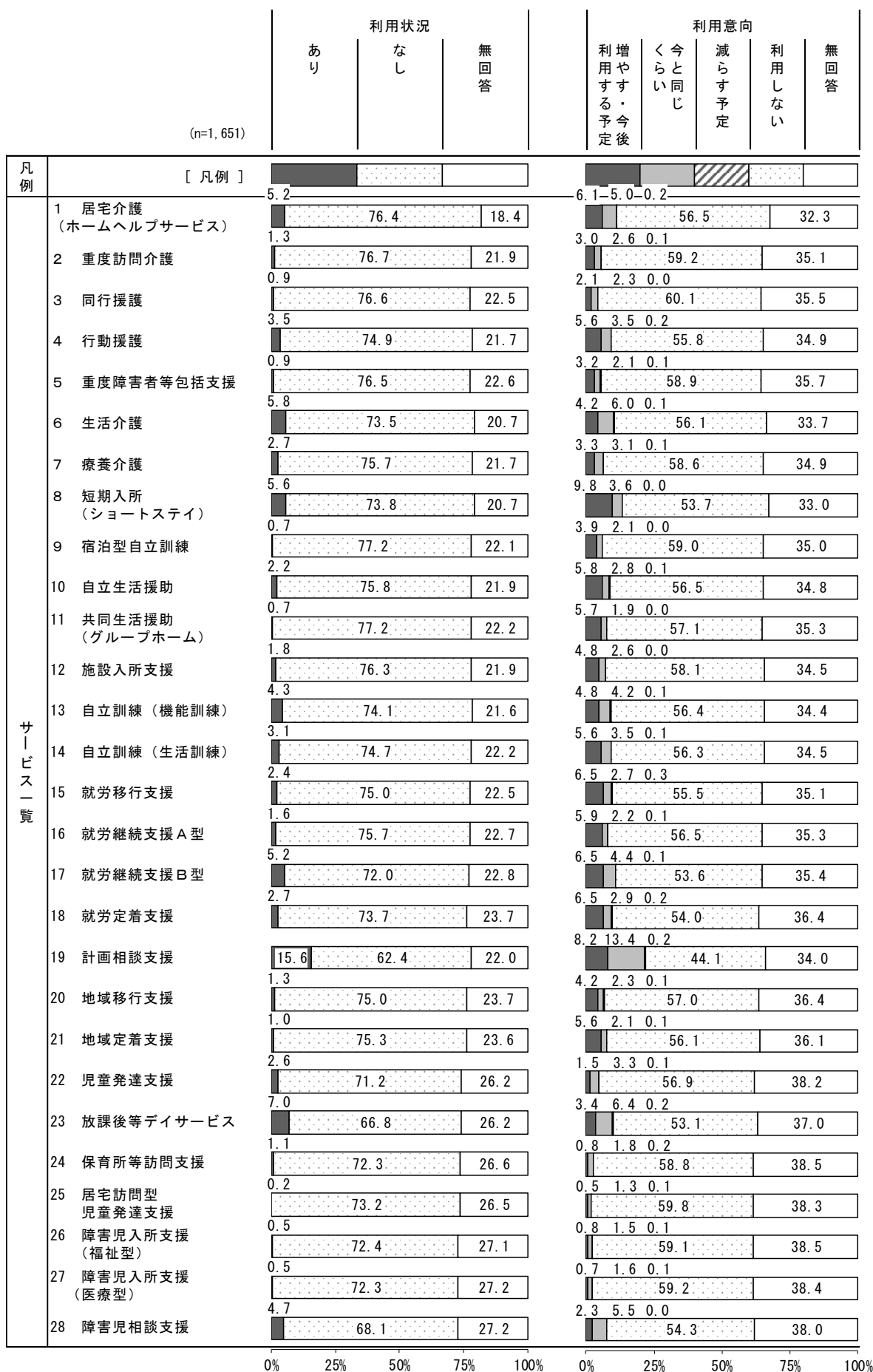
- 利用状況について、「あり」が最も多い項目は、「19 計画相談支援」「23 放課後等デイサービス」が38.9%で最も多く、次いで、「28 障害児相談支援」が22.2%となっています。
- 今後の利用予定について、「増やす・今後利用する予定」が最も多い項目は、「8 短期入所（ショートステイ）」が38.9%で最も多く、次いで、「11 共同生活援助（グループホーム）」「17 就労継続支援B型」が33.3%となっています。

【施設・グループホーム利用者】

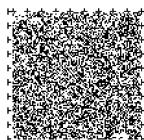
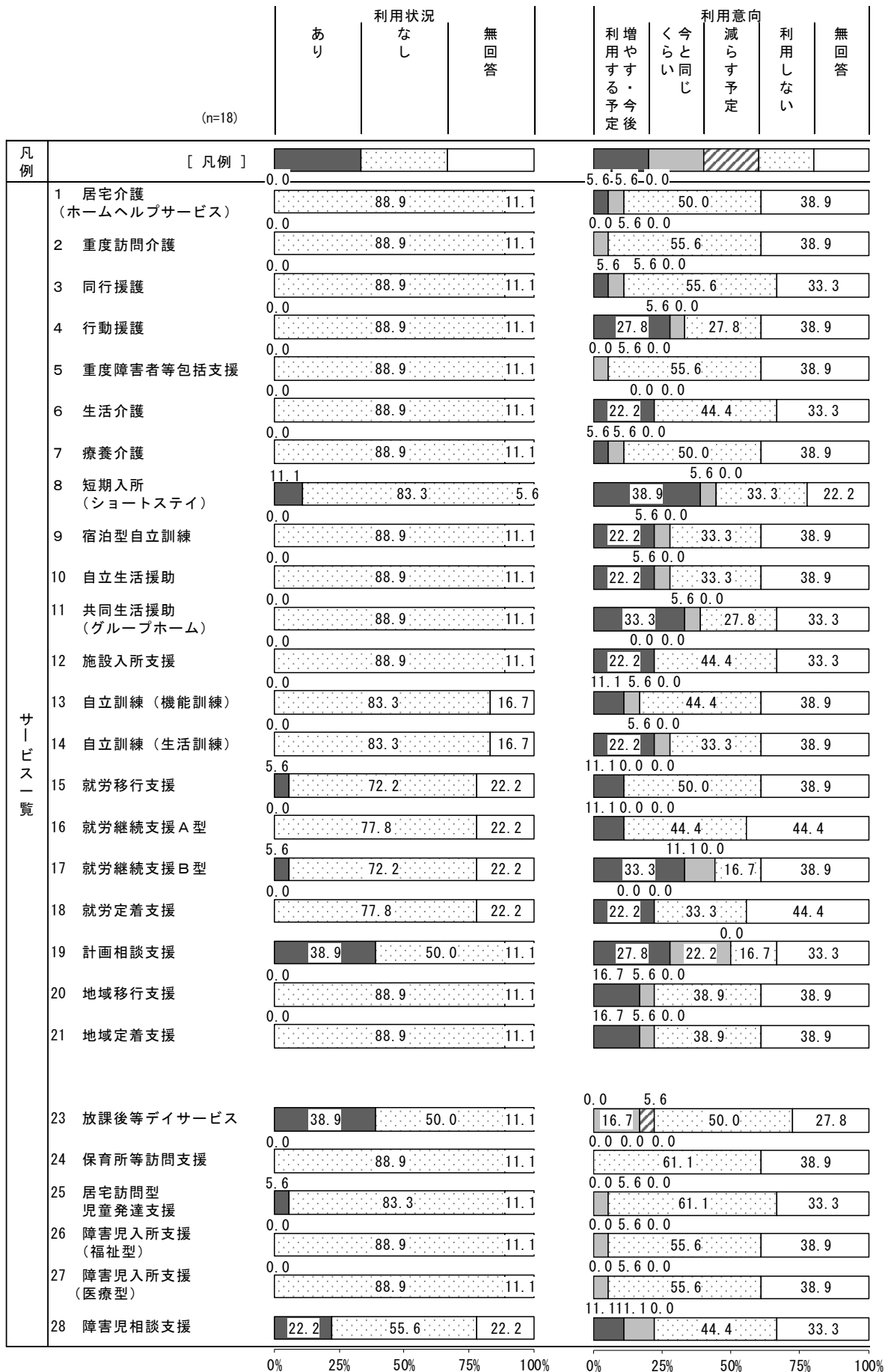
- 利用状況について、「あり」が最も多い項目は、「19 計画相談支援」が69.4%で最も多く、次いで、「12 施設入所支援」が44.4%、「6 生活介護」が41.5%となっています。
- 今後の利用予定について、「増やす・今後利用する予定」が最も多い項目は、「19 計画相談支援」が8.1%で最も多く、次いで、「4 行動援護」が7.7%、「14 自立訓練（生活訓練）」が5.6%となっています。



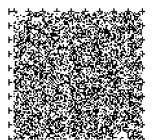
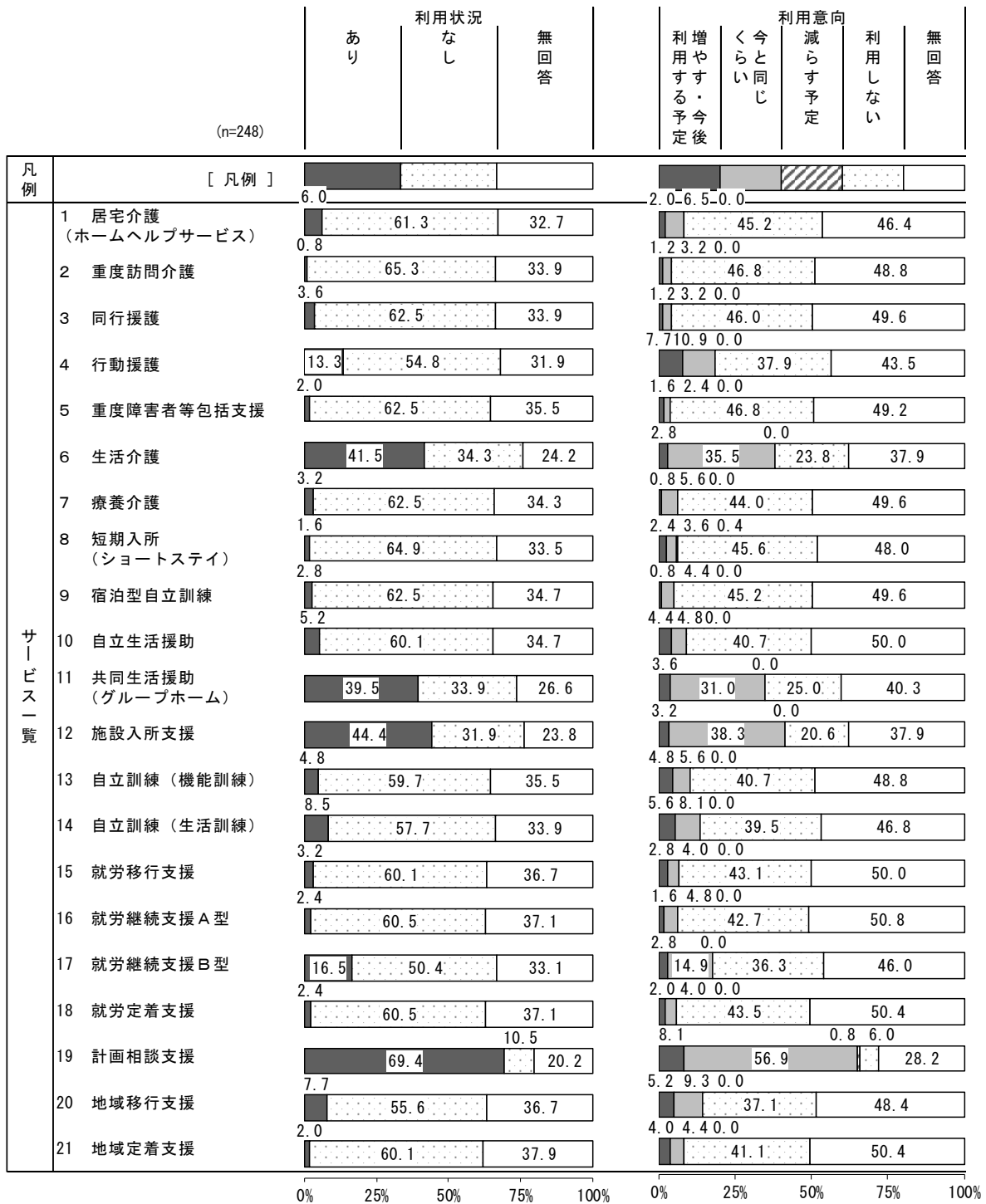
【福祉サービスの利用状況と利用意向（障害者手帳所持者等）】



【福祉サービスの利用状況と利用意向（特別支援学校高等部3年生）】



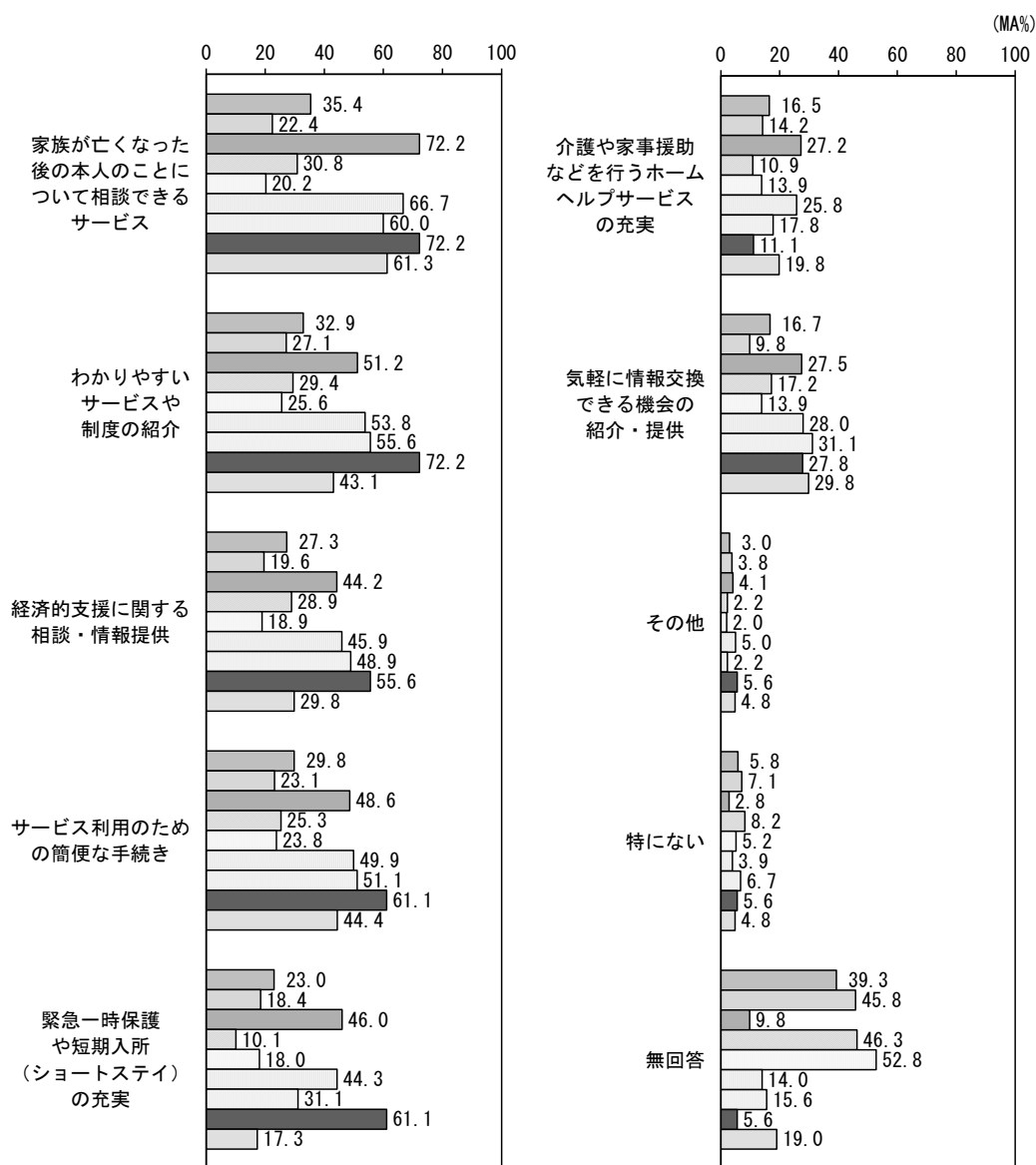
【福祉サービスの利用状況と利用意向（施設・グループホーム利用者）】



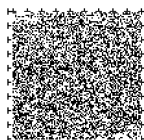
(4) 介助者に必要と思われる支援はありますか。(MA) 【介助者向け調査】

- 介助者に必要な支援について、障害者手帳所持者等、施設・グループホーム利用者は「家族が亡くなった後の本人のことにについて相談できるサービス」、特別支援学校高等部3年生は「家族が亡くなった後の本人のことにについて相談できるサービス」と「わかりやすいサービスや制度の紹介」が最も多くなっています。
- 障害者手帳所持者等の内訳では、身体障害者、難病患者は「わかりやすいサービスや制度の紹介」、知的障害者、精神障害者、発達障害者、高次脳機能障害者は「家族が亡くなった後の本人のことにについて相談できるサービス」が最も多くなっています。

【介助者に必要な支援】



- 障害者手帳所持者等 (n=1,651)
- 身体障害者 (n=450)
- 知的障害者 (n=389)
- 精神障害者 (n=367)
- 難病患者 (n=445)
- 発達障害者 (n=357)
- 高次脳機能障害者 (n=45)
- 特別支援学校高等部3年生 (n=18)
- 施設・グループホーム利用者 (n=248)



(5) 施策分野6に関連する自由記述（抜粋）

■日中、自宅で困っていること（当事者）

- ・ 父母が死去したら1人で生活できない。
- ・ 介助者（妻）が体調崩した時1人では何もできない。
- ・ 就労できず収入がなく将来がとても不安。不安がストレスになり体調にも影響している。生活全体の相談にのってくれる人がいない。

■障害者が地域で暮らすのに必要なこと（当事者）

- ・ 社会が障害を理解すること。
- ・ 全て必要。ホーム等の数をただ増やすというよりも質が大事。重度の障害者含め終の住処となる様な場所、関わり続けてくれる専門的知識のある理解者、支援者が必要。

■生活で困っていること（当事者）

- ・ 将来1人になった時どうすればよいか。
- ・ 両親が亡くなってしまい生活費が不足していると感じる。

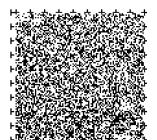
■将来、日中を自宅で過ごしたい理由（当事者）

- ・ 一人で外出できないから。
- ・ 自宅以外に安心して過ごす場がない。
- ・ 仕方がないので、自宅しかないのです。

6-2. 「福祉サービスの充実・向上」に関する見えてくる課題

① 「親亡き後」や緊急時の不安

- ・ 知的・発達・高次脳機能障害者、特別支援学校高等部3年生、施設・グループホーム利用者は、現在の生活で困っていることでは「家族などの介助者の健康状態」が多く見られます。また、介助者に高齢の方が多く、上記の障害者の方は必要な支援への回答が他よりも多く、特に「親亡き後の相談体制」や「サービスの分かりやすさ」「サービス利用の簡便さ」の回答が多いです。
- ・ 自由記述でも「介助者（家族）の急病時に一時的な預かりが得られず困った」等の声もあり、「親亡き後」を含めて将来不安や緊急時に備え、必要な支援につながる体制整備が求められていると考えます。



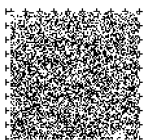
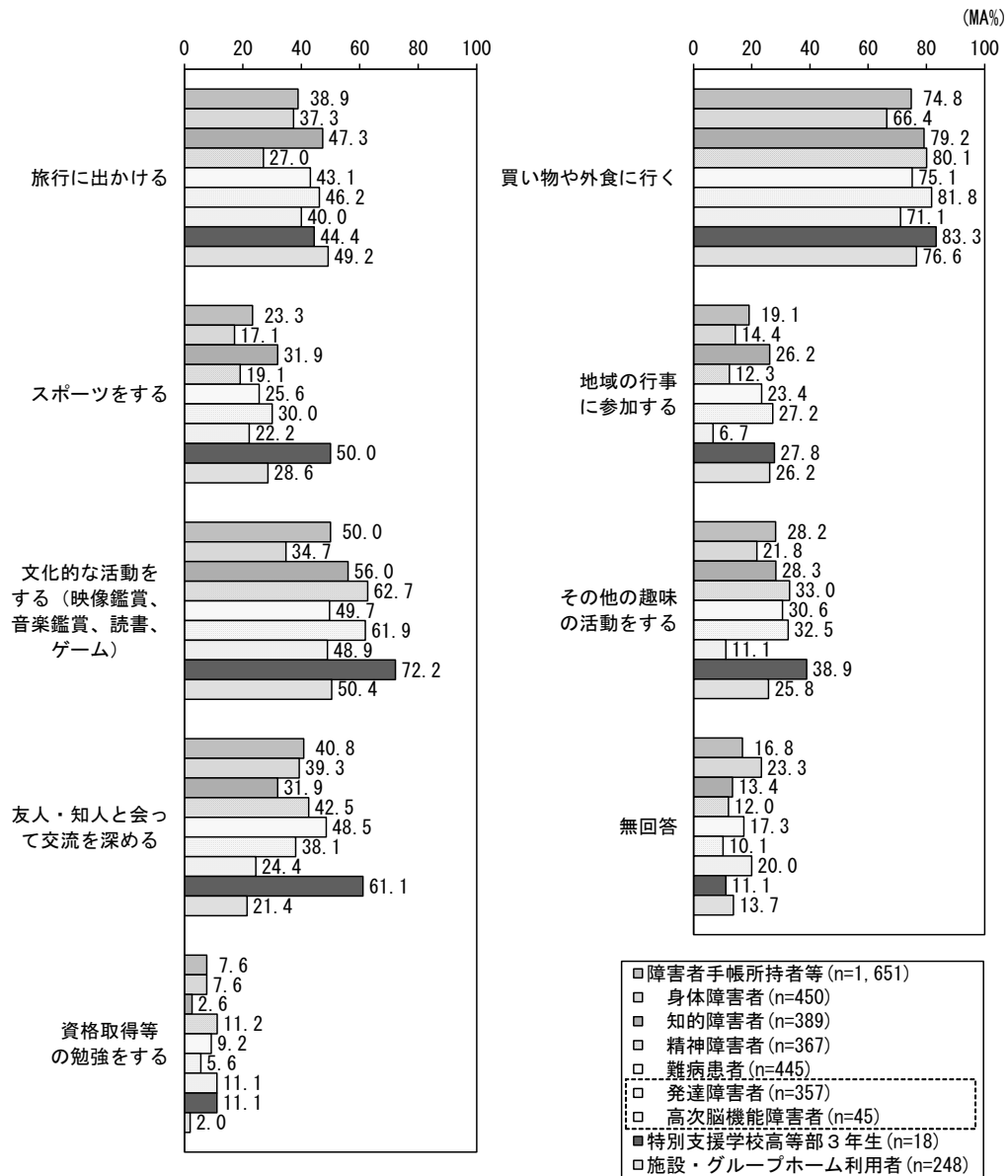
7. 社会参加の拡充

7-1. 「社会参加の拡充」に関する調査結果

(1) 1年間で次の活動をする機会がありましたか。(MA)

- 経験した余暇活動について、障害者手帳所持者等、特別支援学校高等部3年生、施設・グループホーム利用者いずれも「買い物や外出に行く」が最も多くなっています。

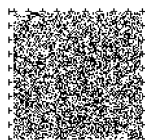
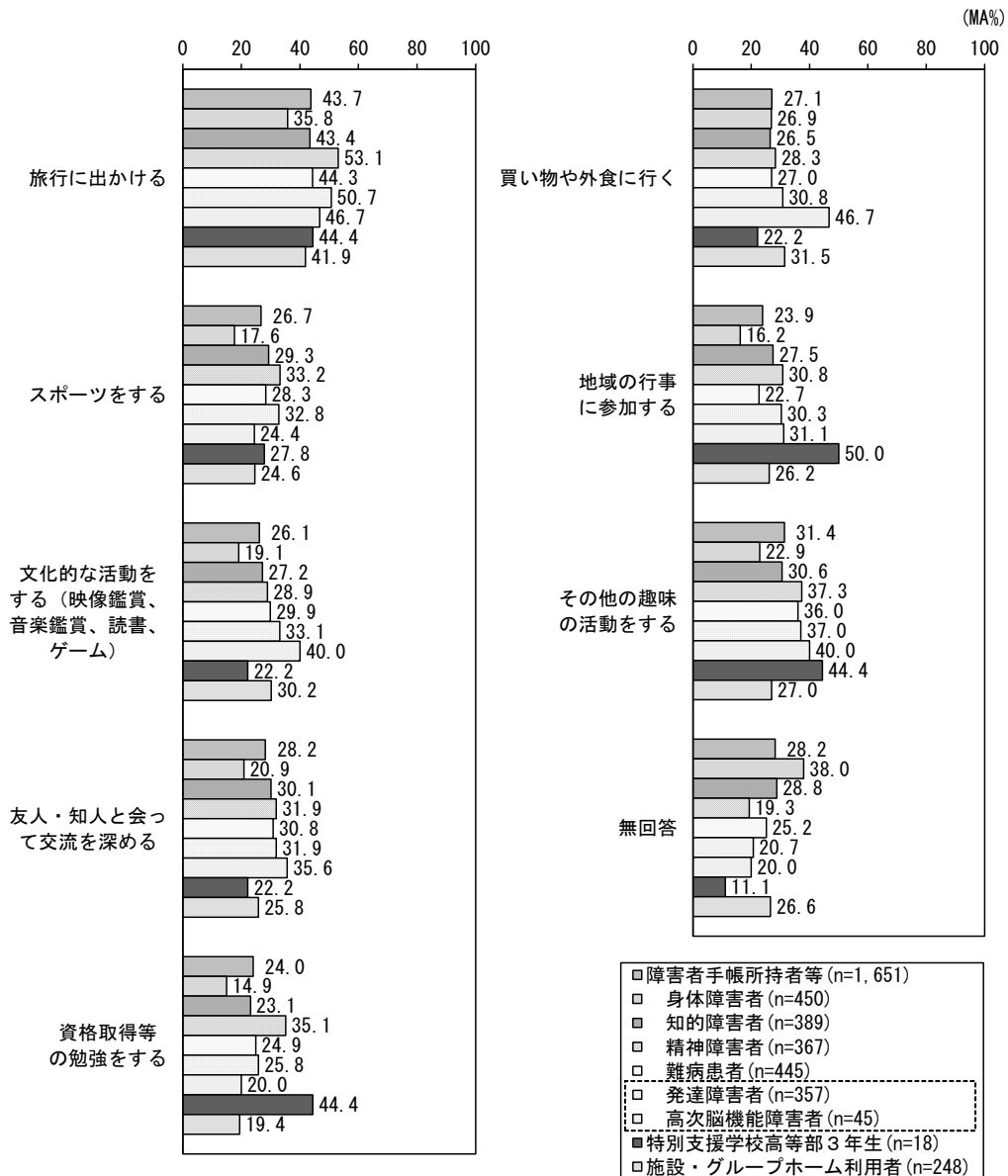
【経験した余暇活動】



(2) 今後してみたい余暇活動は何ですか。(MA)

- してみたい余暇活動について、障害者手帳所持者等、施設・グループホーム利用者は「旅行に出かける」、特別支援学校高等部3年生は「地域の行事に参加する」が最も多くなっています。
- 障害者手帳所持者等の内訳では、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、発達障害者は「旅行に出かける」、高次脳機能障害者は「旅行に出かける」と「買い物や外食に行く」が最も多くなっています。

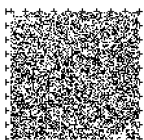
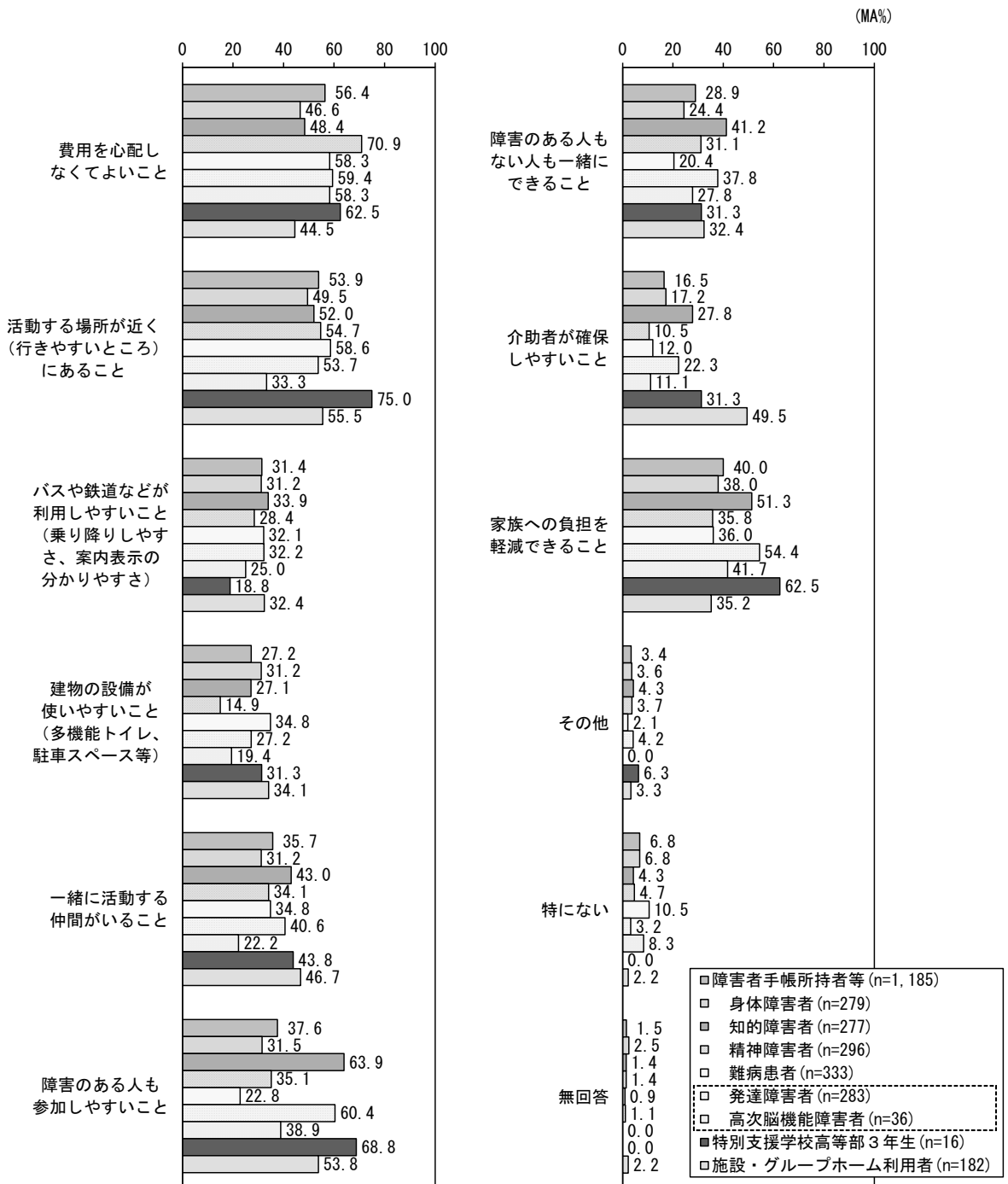
【今後してみたい余暇活動】



(3)(2)の活動をするにはどんなことが必要だと思いますか。(MA)

- 余暇活動のために必要なことについて、障害者手帳所持者等は「費用を心配しなくてよいこと」、特別支援学校高等部3年生、施設・グループホーム利用者は「活動する場所が近く（行きやすいところ）にあること」が最も多くなっています。
- 障害者手帳所持者等の内訳では、身体障害者、難病患者は「活動する場所が近く（行きやすいところ）にあること」、知的障害者、発達障害者は「障害のある人も参加しやすいこと」、精神障害者、高次脳機能障害者は「費用を心配しなくてよいこと」が最も多くなっています。

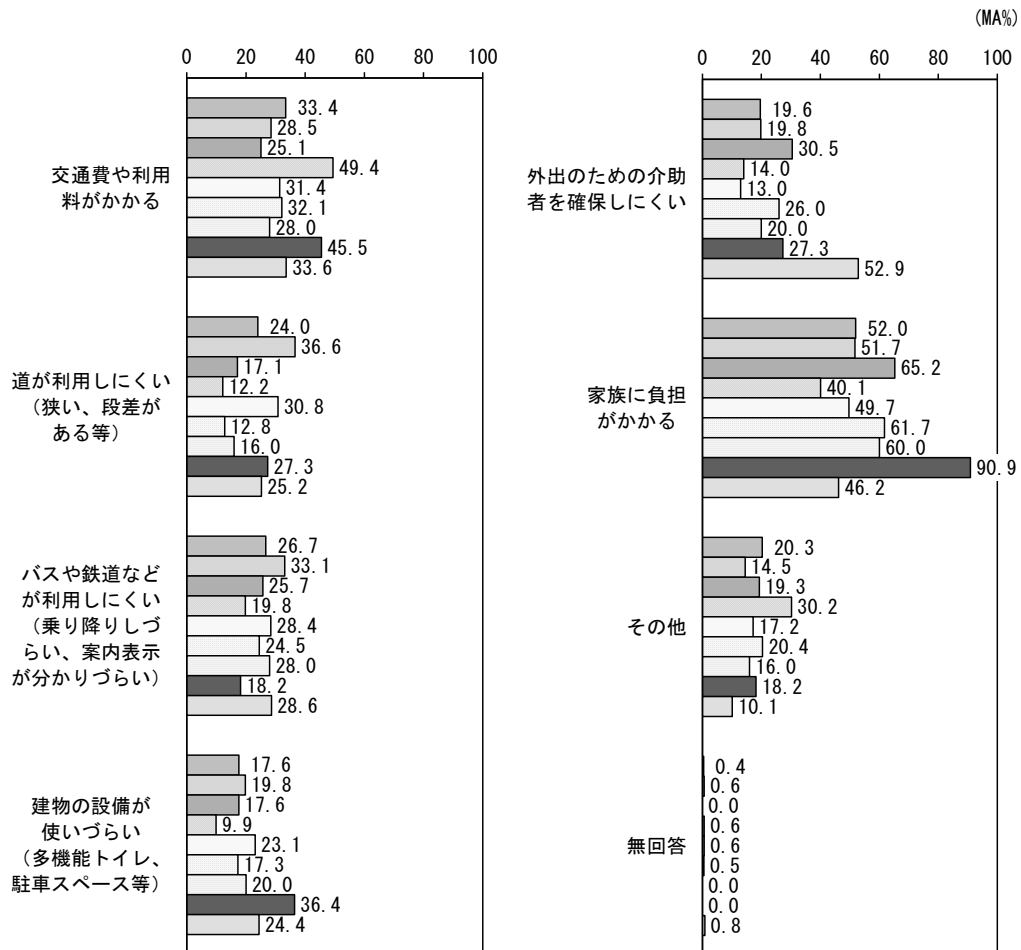
【余暇活動のために必要なこと】



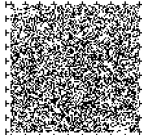
(4) 外出でどのようなことに困っていますか。(MA)

- 外出の際に困っていることについて、障害者手帳所持者等、特別支援学校高等部3年生は「家族に負担がかかる」、施設・グループホーム利用者は「外出のための介助者を確保しにくい」が最も多くなっています。
- 障害者手帳所持者等の内訳では、身体障害者、知的障害者、難病患者、発達障害者、高次脳機能障害者は「家族に負担がかかる」、精神障害者は「交通費や利用料がかかる」が最も多くなっています。

【外出の際に困っていること】



- 障害者手帳所持者等 (n=700)
- 身体障害者 (n=172)
- 知的障害者 (n=187)
- 精神障害者 (n=172)
- 難病患者 (n=169)
- 発達障害者 (n=196)
- 高次脳機能障害者 (n=25)
- 特別支援学校高等部3年生 (n=11)
- 施設・グループホーム利用者 (n=119)



(5) 施策分野7に関連する自由記述（抜粋）

■外出の際に困っていること（当事者）

- ・ バスの本数が少ない。
- ・ バス時刻表、アクセス悪い、駅まで遠い。
- ・ 市内循環バスの紙表示(調べなくとも広報等)本があると良い。
- ・ 介護タクシーが高い。
- ・ トイレを探すのが負担。トイレが整備されていない時がある。
- ・ 1人の時の外出で人が多い場所だと過呼吸が起こったり、何か不測の事態が起こったらどうしようと不安がある。
- ・ 1人で行きたいところに自由に行きたいがいけない。

■余暇活動に必要なこと（当事者）

- ・ トイレの不安があるので、トイレを増やしてほしい。
- ・ 情報が欲しい。
- ・ 障害者への周りの人の理解、ヘルプマークの認知度
- ・ 受け入れ先に、障害への理解が十分にあること。

7-2. 「社会参加の拡充」に関する見えてくる課題

① 家族負担や費用負担

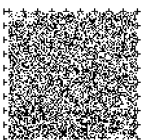
- ・ 社会参加の意欲がある一方で、「費用負担」、「交通機関の使いやすさ」、「移動しやすさ・場所の近さ」、「家族の負担」などから、外出や社会参加の機会がためらわれる状況があると考えられます。
- ・ 特に「家族の負担」は「余暇活動のために必要なこと」でも「外出で困っていること」でも回答が多いことから、移動支援事業の充実が求められていると考えます。

② 交通手段・トイレの不足や情報入手

- ・ 自由記述では、バスの本数が少ない、バス停が遠く利用しにくいといった声や、多機能トイレの不足や場所が分かりにくいことへの意見がありました。
- ・ 外出の際に必要な情報が十分に整理・周知されていないために、外出を控えている方もいる可能性があります。

③ 障害に対する理解

- ・ 「余暇活動のために必要なこと」について、知的・発達障害者、施設・グループホーム利用者は「障害のある人も参加しやすいこと」との回答が多く、自由記述でも活動先での障害に対する理解についての不安がありました。



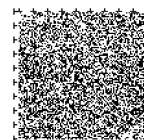
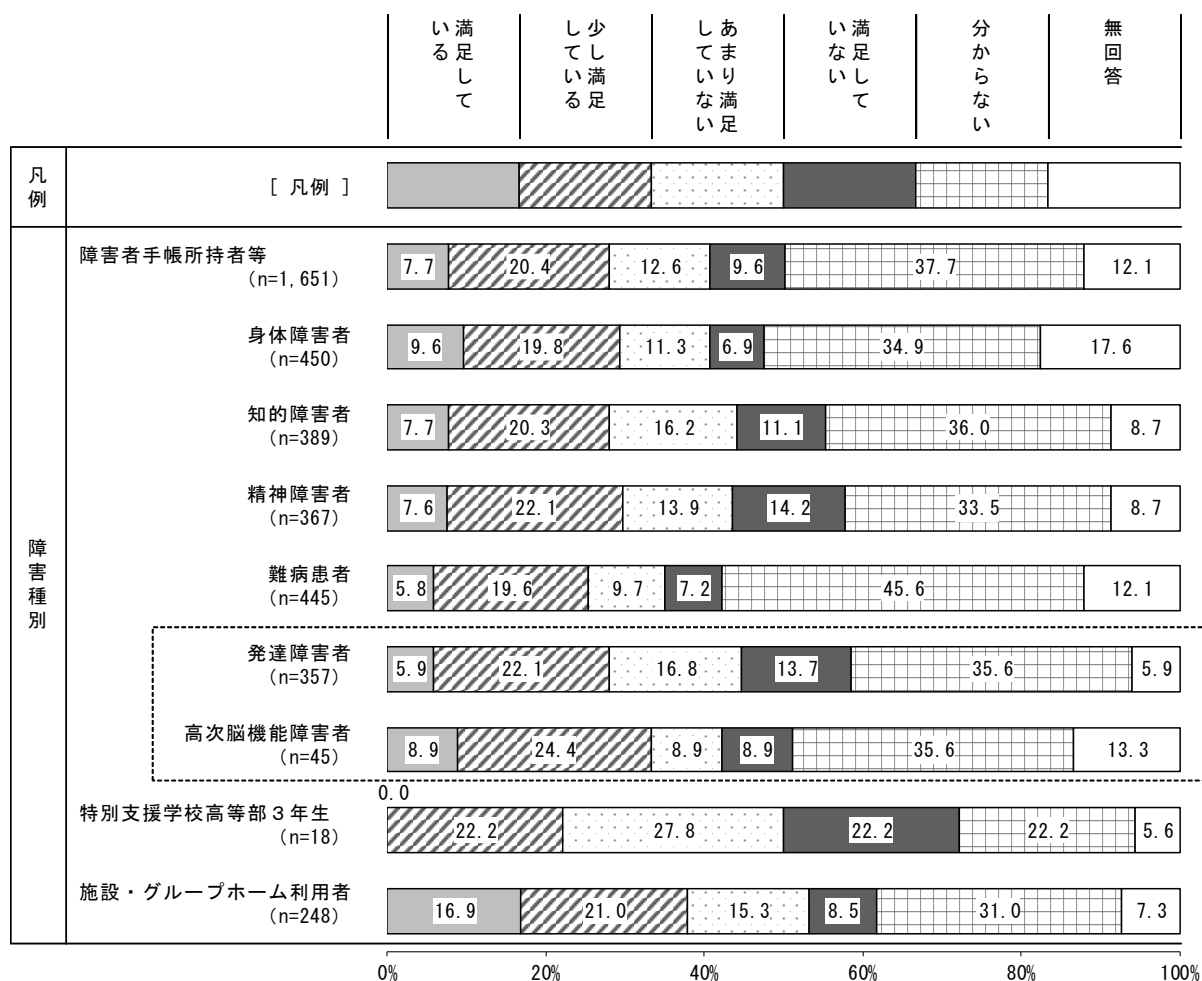
川越市の障害者施策の満足度

1. 「川越市の障害者施策の満足度」に関する調査結果

(1) 川越市の障害者施策について、満足していますか。

- 川越市の障害者施策に対する満足度について、障害者手帳所持者等、施設・グループホーム利用者は「分からない」、特別支援学校高等部3年生は「あまり満足していない」が最も多くなっています。
- 障害者手帳所持者等では、「満足している」又は「少し満足している」と答えた割合は、「満足していない」又は「あまり満足していない」と答えた割合よりも高くなっていますが、前回（令和4年度実施）調査の33.9%から5.8ポイント下げて28.1%となっています。

【川越市の障害者施策に対する満足度】

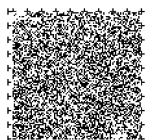
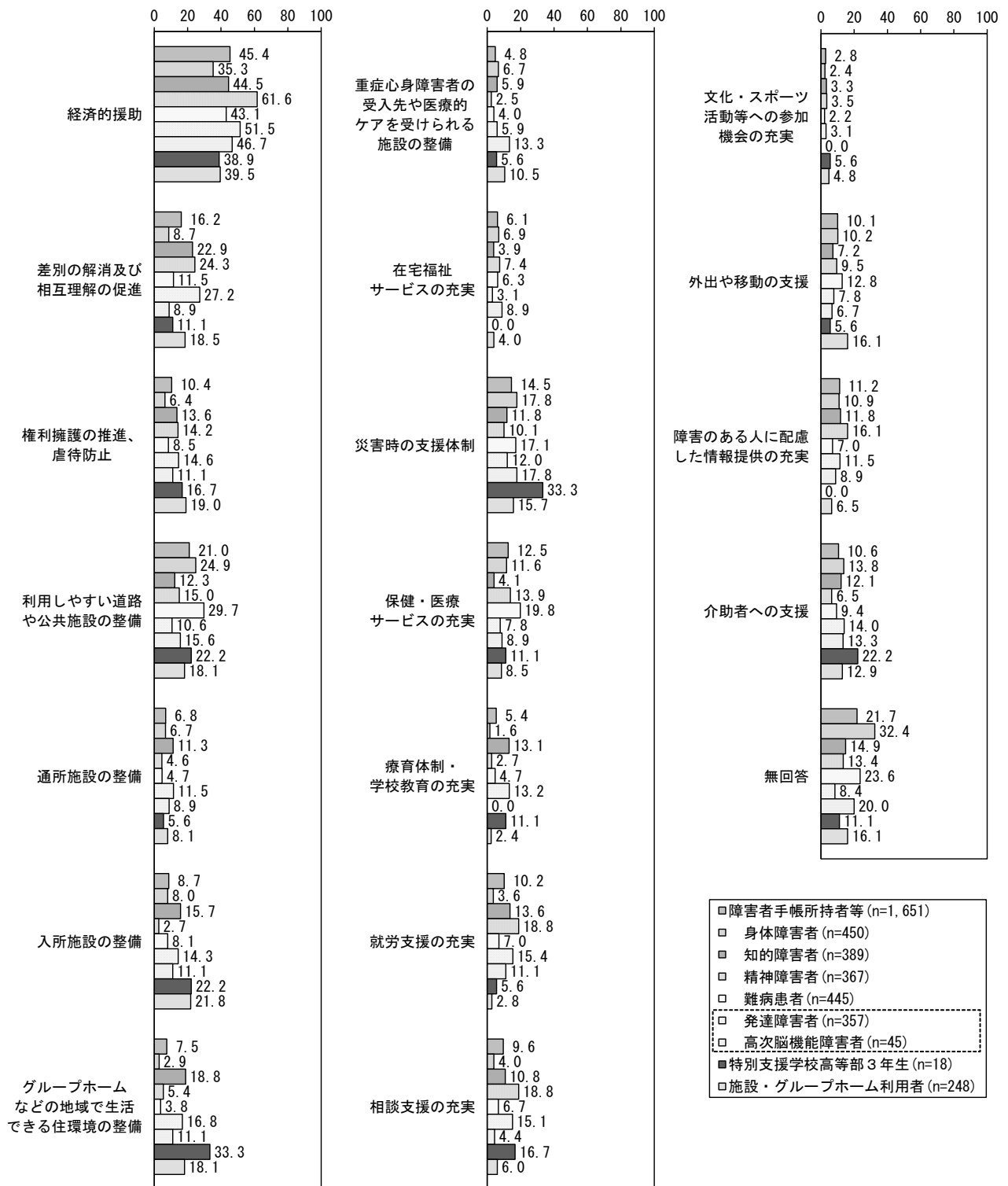


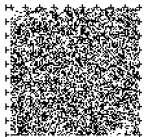
(2) 次の市の取り組みで、改善してほしいことを教えてください。(3LA)

○ 改善してほしい市の取り組みについて、障害者手帳所持者等、特別支援学校高等部3年生、施設・グループホーム利用者いずれも「経済的援助」が最も多くなっています。

【改善してほしい市の取り組み】

(MA%)





川越市障害福祉に関するアンケート調査報告書
概要版

発行日 令和8年3月

発行 川越市福祉部障害者福祉課
川越市元町1丁目3番地1

電話 049-224-6307 (直通)

FAX 049-225-3033

